

JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会（第13回）
書面決議（令和3年10月19日）

〈協議事項〉

議案第1号 地域公共交通計画（素案）について

〈報告資料〉

アンケート調査の実施について

〈協議資料〉

別添のとおり

〈委員からの主な意見〉

- ・ コロナの影響、with コロナに関する内容の記載が必要では。
- ・ 現行計画で実施した事業は写真等も含め、詳細に掲載願いたい。
- ・ コロナ禍による生活様式の変化とともに、外出機会が減少、公共交通機関利用者も少なくなって自家用車での移動が増えている現状から、新型コロナウイルス感染症の収束と利用回復を願うばかりである。 等

1 本計画の目的等

■ 目的

J R山陰本線を基軸とする3市町(綾部市、南丹市、京丹波町)を一つの計画区域として基幹交通(J R山陰本線と基幹交通バス)と区域内交通(地域内のバスやタクシー等)からなる公共交通ネットワークの再構築を目指し、平成29年3月に「J R山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通網形成計画」(以下、網形成計画)を策定しました。

本計画は、これまでの事業・施策の実施結果や網形成計画の基本方針を踏まえ、今後の公共交通のあり方を再検討し、近年の社会情勢変化に対応した持続可能かつ地域にとって望ましい公共交通体系を構築するため、まちづくり等と連携した公共交通の次期マスタープランとなる「J R山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通計画」を策定します。

■ 計画区域

本計画の対象となる区域は、綾部市、南丹市、京丹波町の2市1町からなる地域とし、その中でも、J R山陰本線の園部駅～綾部駅間に関連する区域とします。

綾部市 山家地区及び上林地区

南丹市 船岡駅以北の地域
(旧日吉町、旧美山町、旧園部町の旧川辺小学校区)

京丹波町 全域



■ 対象とする交通

- 鉄 道：JR山陰本線(園部～綾部間)
- バ ス：西日本ジェイアールバス 園福線
京阪京都交通(計画区域内を運行する系統)
あやバス 上林線、於見市野瀬線
南丹市営バス 全系統(計画区域内を運行する系統)
京丹波町営バス 全系統
- 個別輸送：スクールバス、デマンドバス(南丹市)、福祉有償運送、タクシー

■ 計画期間

おおよそ10年後(令和13年度)の将来を見据えつつ、令和4年度から8年度までの5年間の計画とします。

■ 計画の位置づけ

本計画は、3市町や京都府の総合計画やまちづくりに関する計画と連携・整合を図り、地域の公共交通のマスタープランとして位置づけます。

3市町の総合計画・関連計画
京都府の広域計画・関連計画

JR山陰本線(園部～綾部)沿線
地域公共交通計画

<各計画の政策の方向性>

- ・ 出産・子育て環境の充実
- ・ 産業の創生や基盤強化による地元雇用の確保
- ・ 人・地域の交流を支える拠点・ネットワークづくり
- ・ 観光交流の推進
- ・ 暮らしの安全と安心の確保
- ・ 次代を担う人材育成

2 地域の公共交通等の問題点及び課題点

地域の問題点

地域公共交通等の課題

や都市人口構造等

若い世代を中心に、人口減少や他地域への流出が発生

公共交通が不便な地域などで、後期高齢者割合が増加

生活関連施設の立地は、駅周辺ではなく旧市街地や国道沿道に集中

自動車利用が前提となった生活・観光スタイル

公共交通

公共交通利用者数の減少により公共交通の維持・存続が困難

鉄道駅での交通結節機能が弱い、駅機能以外の施設が少ない

園部駅～綾部駅間の鉄道のサービスレベルは高くない

通学先の多様な選択ができない地域もあり、通学手段として利用しにくい

高齢者の潜在的ニーズは高いが、公共交通を使った買い物や通院が困難

公共交通を使った観光が困難

地域からの声

住民 住民アンケート調査実施中
地元意見交換会等 企画

利用者 駅利用者アンケート調査
企画

事業者等 交通事業者等関係者へのヒアリング調査
企画

通勤・通学交通に関する課題

自宅や最寄り駅からの広域の通勤・通学ができる公共交通網の整備と利便性の向上

日常生活交通に関する課題

地域内や3市町間を相互移動ができる公共交通の整備

地域内交通のサービスレベルの維持(外出するための移動手段の確保)

交通結節機能の強化や駅を中心とした賑わいの創出など、日常的に公共交通を利用してもらうための整備・拠点づくり

公共交通利用への転換と外出機会を拡大する取組

自動車の運転が困難になる高齢者の増加を見据えた移動手段の確保や安全な交通環境の充実(自動車に依存しない外出行動への転換)

観光・交流交通に関する課題

周遊観光にも適用できる、鉄道と地域内交通の総合的なサービスの提供

公共交通による移動方法の周知

初めて訪れる観光客や外国人観光客に対応した案内方法など、利便性の向上

3 地域の将来像と基本方針

目指すべき地域公共交通の将来像

安全安心で豊かな暮らしを支え、交流・定住・まちづくりを進める公共交通の実現

- 基本方針 1** JR山陰本線（園部～綾部）を中心とした公共交通サービスの改善を進め、利用者数増加や鉄道複線化につなげる
- 基本方針 2** 日常生活の拠点となる施設や公共交通の乗継拠点となる鉄道駅・バス停等の整備を進め、それらのネットワーク化を図る
- 基本方針 3** 自動車を運転できなくても安心して生活できるように、買い物や通院等が可能となる公共交通サービスを実現する
- 基本方針 4** 公共交通を次世代に残すために、地域の関係者が協働し、支え育む活動を進める
- 基本方針 5** 地域内や地域間の交流促進に向けて、分かりやすく使いやすい施設整備を進める

将来像を踏まえた沿線地域の公共交通ネットワーク



4 計画目標と目標を達成するために行う取組の概要

基本方針①

目標① 広域への通勤通学も可能な公共交通サービスの維持・確保

数値目標 通勤通学可能エリア拡充／人口あたり通勤通学定期利用者数

- ① JR山陰本線のサービスレベルの維持・向上
- ② 高校生の帰宅時間帯に運行する移動手段の導入

目標② シームレスな移動が可能となるサービスの提供

数値目標 （検討中）

- ③ 3市町内をシームレスに移動できる仕組みづくり
- ④ 交通系ICカードシステムの導入
- ⑤ 公共交通同士の乗継状況の改善

基本方針②

目標③ 快適な公共交通結節点

数値目標 整備拠点数（4つの機能の整備）

- ⑥ 高校生の利用の多い駅での交通結節機能の強化
- ⑦ 高齢者の利用の多い駅やバス停での交通結節機能の強化
- ⑧ 女性が安心して滞在することができる交通結節点の整備
- ⑨ 長時間待っても楽しめる交通結節点の整備
- ⑩ 公共交通のリアルタイム情報の提供

基本方針③

目標④ 主に昼間時間帯の地区内移動の維持・確保

数値目標 人口あたりのバス利用者数

- ⑪ あやバス、南丹市営バス、京丹波町営バスの運行内容の見直し
- ⑫ 高齢者の帰宅時間帯（主に夕方）に運行する移動手段の導入
- ⑬ 買い物や通院が公共交通で困難な地域での移動手段の導入や支援（空白地不便地域での対策）
- ⑭ 週末のサロン活動や朝市活動場所への移動手段の導入

基本方針④

目標⑤ 自動車を運転できなくても安心して移動できるサービスの提供

数値目標 公共交通等の利用率／タクシーの利用者数

- ⑮ 子育て世代に対する運賃支援
- ⑯ 運転免許証の自主返納への支援

基本方針⑤

目標⑥ 地域全体で公共交通を支え育む意識の醸成

数値目標 公共交通等の利用率

- ⑰ モビリティ・マネジメントの実施
- ⑱ 地元住民や関係者との懇談会の実施

目標⑦ 使いやすい分かりやすい情報提供

数値目標 観光入込客数／情報のオープン化

- ⑲ 体系的な観光情報・公共交通情報の案内
- ⑳ 訪日外国人向けの多言語化

目標⑧ 若い世代の外出機会の創出（交流促進）

数値目標 週末や休校期間中の公共交通利用者数

- ㉑ 若い世代が京都まで遊びにいける交通手段の導入
- ㉒ 学校の夏休み期間中に、地域内を散策できる運賃施策の導入

J R山陰本線(園部～綾部)沿線 地域公共交通計画

計画編

(素案)

令和〇年〇月

京都府・綾部市・南丹市・京丹波町

目 次

1.	地域公共交通計画の目的（未更新）	1
1.1	計画策定の背景	1
1.2	本計画の目的	1
1.3	計画区域・計画期間	2
2.	J R山陰本線（園部～綾部）沿線地域の現況	3
2.1	計画区域内の現況	3
2.2	公共交通の現況	6
3.	J R山陰本線（園部～綾部）沿線地域の現況からみた問題点	9
3.1	計画区域の現況からみた問題点	9
3.2	公共交通の現況からみた問題点	9
(1)	公共交通全般における問題点	9
(2)	通勤・通学における問題点	10
(3)	日常生活交通における問題点	10
(4)	観光・交流交通における問題点	11
4.	地域のニーズ把握（未更新）	17
4.1	住民アンケートから把握された現況・ニーズ	17
4.2	駅利用者アンケートから把握された現況・ニーズ	17
4.3	交通事業者等の関係者ヒアリング調査から把握された現況・ニーズ	17
4.4	地元関係者との意見交換会から把握された現況・ニーズ	17
5.	地域公共交通網形成計画での実施状況（作成中）	18
6.	地域内の地域公共交通等の課題	21
7.	地域の上位計画の方向性	22
8.	地域公共交通計画の基本方針	24
8.1	計画の基本的な方針	24
8.2	計画の目標...目指すべき地域公共交通の将来像	24
8.3	施策の基本方針	24
8.4	地域公共交通の位置づけと役割	27
9.	施策目標の達成状況を評価する数値目標（未更新）	29
10.	課題解決と上位計画実現のための具体的施策（見出しのみ）	30
11.	計画の評価と推進体制（未更新）	33
11.1	評価の基本的な考え方	33
11.2	推進体制	33

1. 地域公共交通計画の目的（更新作業中）

1.1 計画策定の背景

地域公共交通を取り巻く状況として、平成 26 年 11 月に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正が施行され、まちづくりとの連携、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワーク全体の再構築を目的に、多様な交通サービスを組み合わせ、住民・交通事業者・行政の連携による網形成計画の策定ができるようになり、地域にとって最適な公共交通ネットワークの実現に向け、支援制度が強化された。

JR 山陰本線は府域の南北縦貫軸を形成する重要な路線であり、「京都縦貫幹線鉄道」として位置付け、京都～園部間の複線化・高速化事業に取り組み、駅周辺の都市開発事業等との相乗効果により、年々利用者数も増加し、沿線人口の減少傾向の短縮の観点から、沿線地域

このため、将来の園部～綾部間の複線化事業の検討が行政、鉄道事業者からなるとして行われた。さらに、平

また、沿線地域は自動車などから、若い世代が利用したくなる公共交通の環境づくりや、近年、社会問題となっている高齢者が加害者となる自動車事故の抑制に向けた免許返納を促進するため公共交通の利用環境の整備を進める必要がある。

このエリアでは、南丹市美山町のかやぶきの里などへの外国人を含む観光客の増加や、森の恵みを活かし、森に包まれた暮らしを発信する「森の京都」構想の推進など、観光客の誘客も図っている。さらに、平成 27 年には京都縦貫自動車道の全通と京丹波パーキングエリア（道の駅 京丹波 味夢の里）の完成により、同パーキングエリアを活用した高速バスストップと新たな公共交通ネットワーク構築の可能性がでてきている。

このため、JR 山陰本線を基軸とする 3 市町を一つの計画区域として基幹交通（JR 山陰本線、基幹交通バス）と区域内交通（地域内のバスやタクシー等）からなる公共交通ネットワークの再構築を目指すものである。

1.2 本計画の目的

平成 26 年改正の地域公共交通の活性化及び再生に関する法律では、まちづくりと連携し、面的な公共交通ネットワークの再構築を目指すこととしている。こうした状況を受け、京都府の府政運営の指針「明日の京都」構想、この地域で取り組んでいる ICT 活用事業、駅周辺整備事業、公共交通ネットワークと区域内交通、再構築を目指すため、地域公

更新作業中

更新作業中

1.3 計画区域・計画期間

計画区域：

- ・本計画の対象となる区域は、綾部市、南丹市、京丹波町の2市1町からなる地域とし、その中でも、JR山陰本線の園部駅～綾部駅間に関連する区域とする。

<計画区域>

- ・南丹市
- ・京丹波町
- ・綾部市

更新作業中

(日美山町、旧園部町の旧川辺小学校区)

計画期間：

- ・おおよそ10年後（平成38年度）の将来を見据えつつ、平成29年度から33年度までの5年間の計画とする

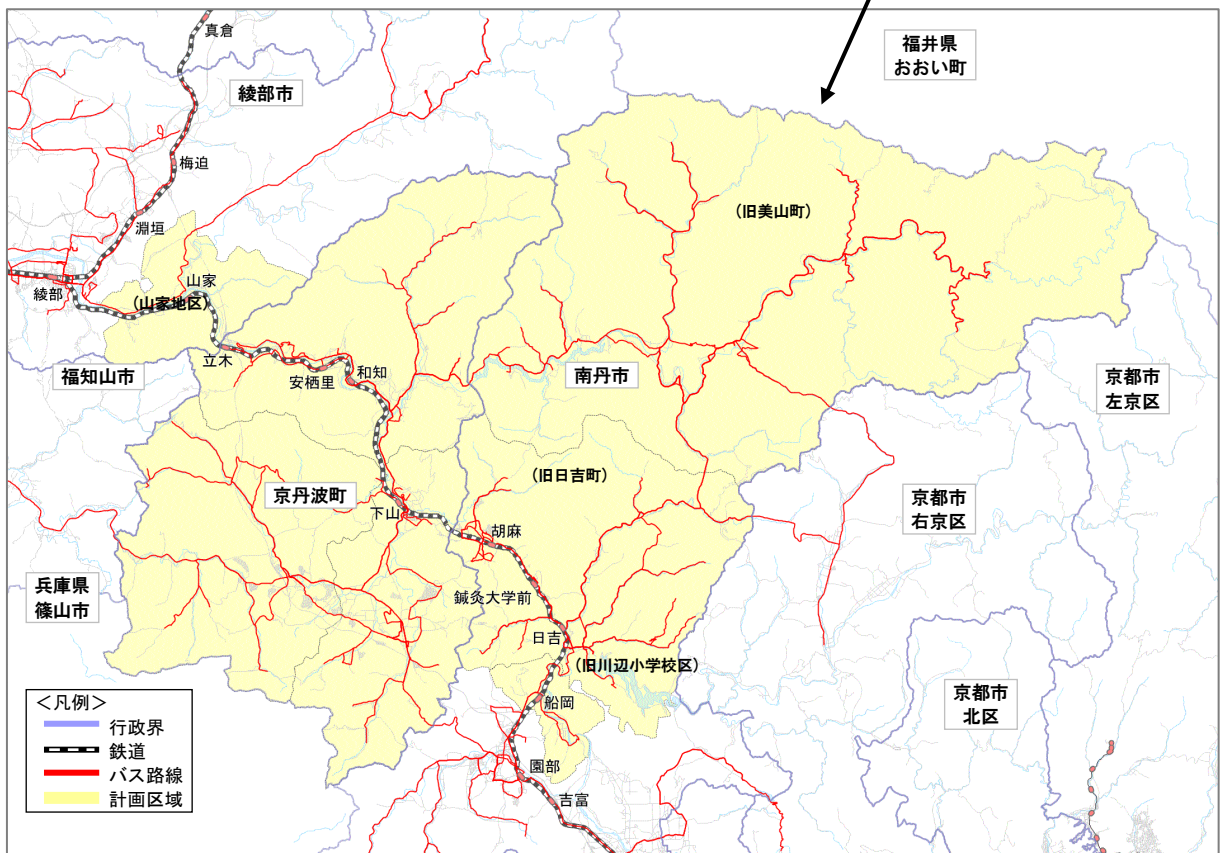


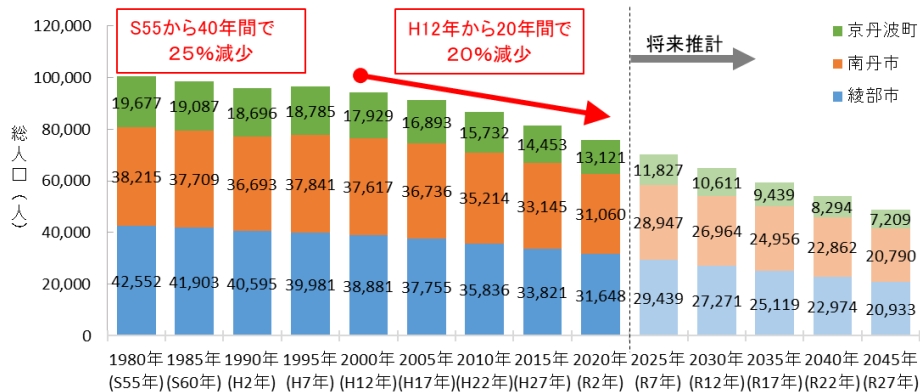
図 計画区域

2. JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域の現況

2.1 計画区域内の現況

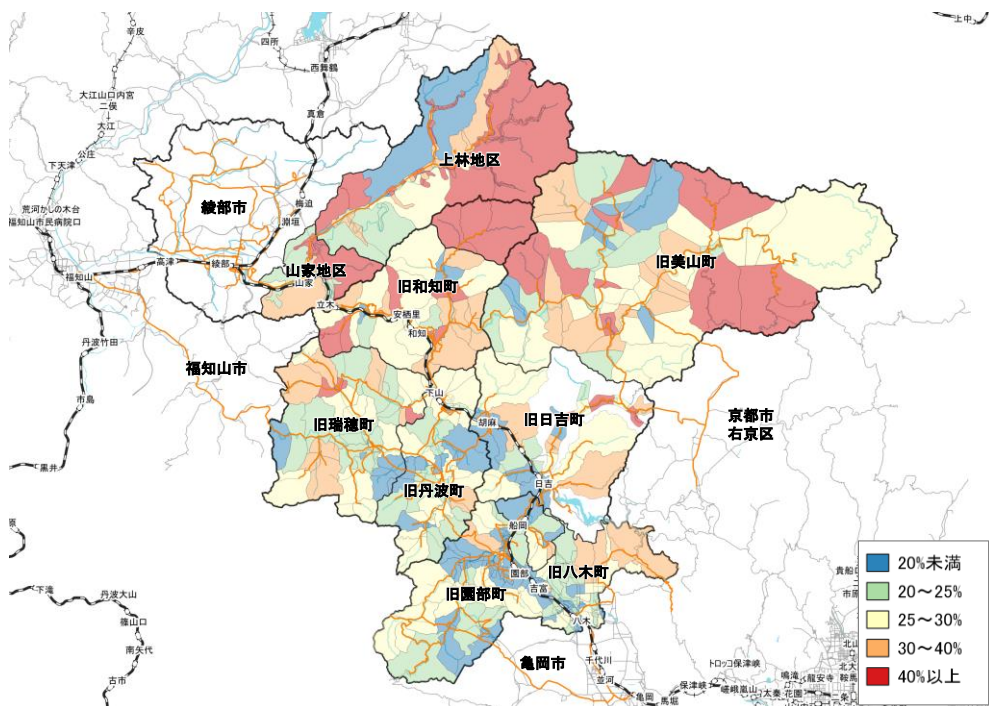
■人口と年齢構成

- 3市町の人口は、平成7年から令和2年の25年で約20%減少。将来推計人口も減少見込み。
- 平成27年から令和2年の5年間でも、約6.1%減少している。
- 若年層の減少が著しく、25年前の平成7年から年少人口は約47%減少、生産年齢人口も約35%減少している。今後減少は加速する見込み。
- 老年人口は微減に転じている。高齢化率は今後も上昇する見込み。



(資料) 総務省統計局「国勢調査報告」(R2年の値は速報値), 将来推計値は国立社会保障・人口問題研究所推計値

図1 3市町の人口の推移

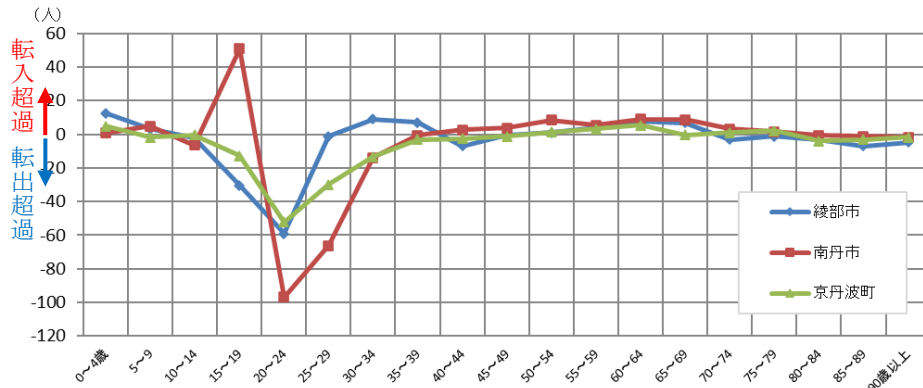


(資料) 住民基本台帳人口 (R3)

図2 3市町の75歳以上人口割合

■社会増減（転入・転出状況）

- 3市町は転出超過の状況にあり、特に20～24歳の転出が多い。
- 南丹市は15～19歳の転入が多い。園部駅周辺に立地する大学・専修学校への入学生の影響が考えられる。



資料：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」(H29～R1)

図3 3市町の年齢層別転入・転出超過数 (3市町計・H29年からR1年の平均値)

■生活関連施設

- 公共施設や生活関連施設は JR 山陰本線沿線や国道 9 号沿線に多くが立地しているが、商業施設や医療施設、教育施設（高校・大学）は南丹市園部町・綾部市の中心市街地に集中している。

■人の動き

【計画区域全体】

- トリップ数（外出人口あたりの生成原単位（1人あたりの1日のトリップ数（トリップ：ある1つの目的での、出発地から到着地までの移動のこと））は減少傾向（H12・H22ハートトリップ調査）。特に若者のトリップ数が減少。
- 計画区域内の移動は自動車が多い（平日の自動車分担率（H22ハートトリップ調査）：68%）。
- 自家用車の1世帯あたり保有台数は、3市町の平均で1.81～2.23台/世帯（R1）。府の平均（0.99台/世帯）の約2倍。
- 京都市と南丹市園部町間の移動は鉄道利用が7割を占めるが、他の地域間の移動は自動車利用が中心である（H22ハートトリップ調査）。

【通勤流動】

- 通勤先は3市町内のほか、南丹市や京丹波町では京都市や亀岡市、綾部市では福知山市や舞鶴市が多い（H27国勢調査）。
- 利用手段は3市町とも自動車利用割合が高く、特に、地域外移動で自動車利用割合が高い（H22ハートトリップ調査）。また鉄道利用に際しては、自宅の最寄り駅よりも運行本数が多い園部駅や綾部駅を利用する方もいる。

【通学流動】

- 通学先は3市町内のほか、南丹市や京丹波町は京都市、綾部市では福知山市への移動が多い（H27国勢調査）。
- 小中学校は公共交通機関やスクールバスでの登校が可能である。高校は多くが JR 山陰

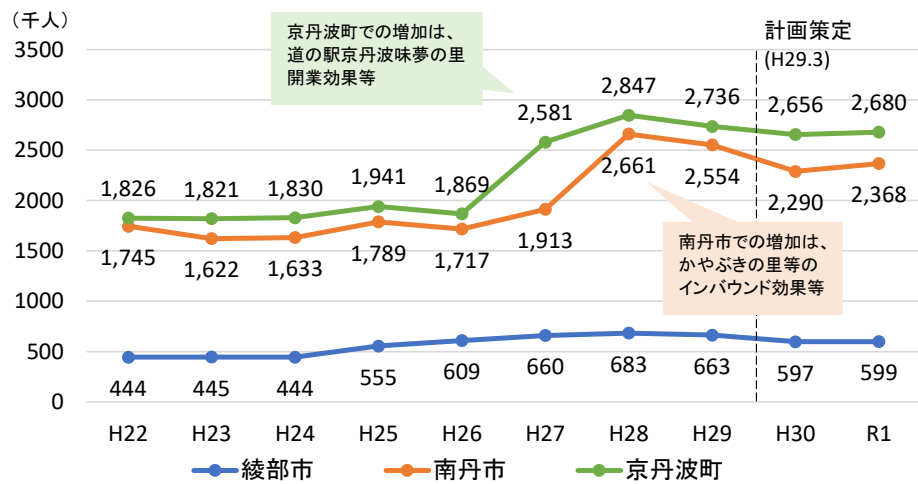
本線沿線に多く立地しているため、路線バス等から JR に乗り換えての移動となる。

【日常生活流動】

- 自由目的での移動は、3市町内のほか、京都市、福知山市、舞鶴市、亀岡市への移動が多い。移動手段は地域内・地域外ともに自動車利用割合が高い（H22 パートトリップ調査）。
- 府内の全交通事故発生件数に対する高齢者の交通事故発生件数割合は増加している。

■観光

- 3市町への観光入込客数は平成28年頃がピークで、以降は横ばいである。



(資料) 京都府統計書、京都府観光入込客調査報告書

図 4 3市町の観光入込客数の推移

2.2 公共交通の現況

■地域公共交通網の状況

○計画区域内の基幹交通には、鉄道は JR 山陰本線、路線バスは西日本ジェイアールバスの園福線がある。域内交通は、鉄道駅や主要バス停などを起点とした、南丹市営バス、京丹波町営バス、あやバス等のバス路線がある。

(以下、本節に示す公共交通の現況は令和 3 年 3 月時点の情報に基づく。)

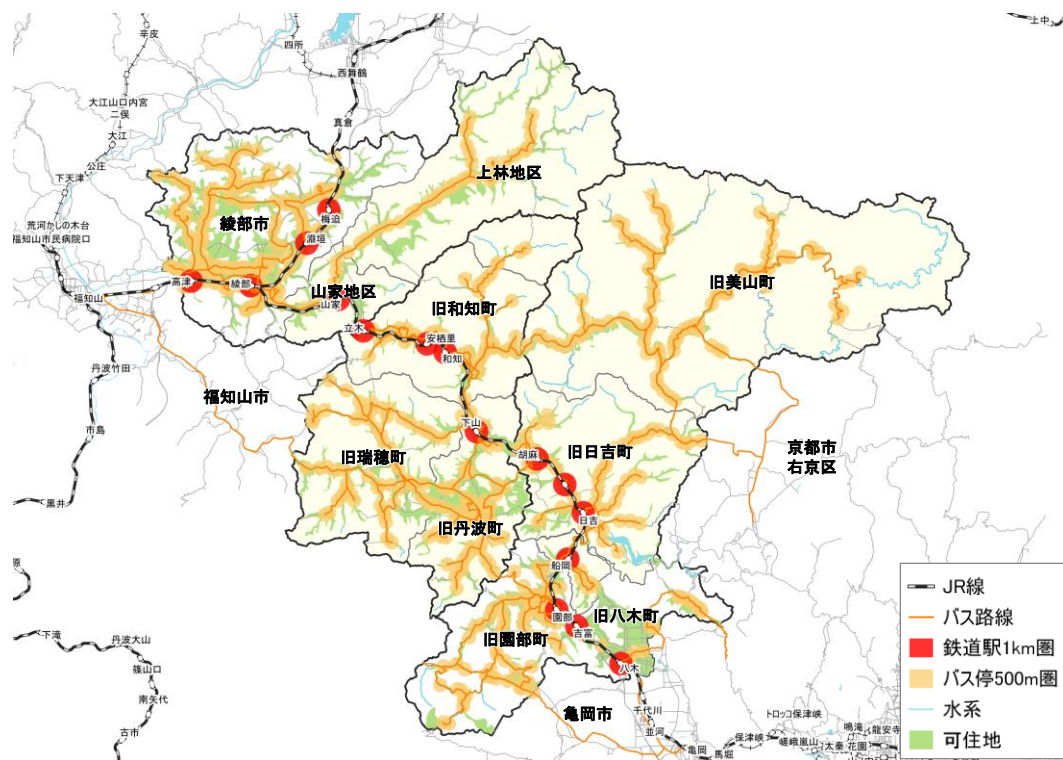


図 5 3 市町の公共交通体系と公共交通カバーエリア

■鉄道（基幹交通）：JR山陰本線

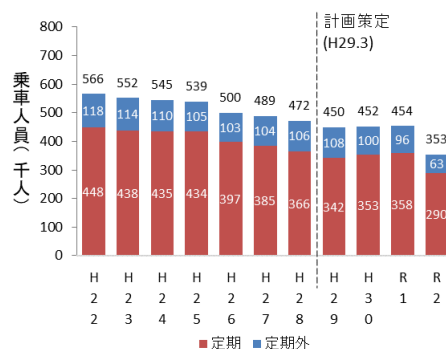
○特急列車は、9 往復（15 往復のうち 6 往復が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により運休）が運行。園部駅及び綾部駅に停車（一部日吉駅にも停車）。

○普通列車は園部～胡麻間は 23 往復（土曜休日は 22 往復）、胡麻～綾部間は 16 往復運行。

○園部駅～綾部駅間の運行本数は、亀岡駅～園部駅間と比べて半数以下であり、船岡駅～山家駅間の利用者数は減少傾向。乗車人員は 45 万 4 千人（令和元年）で、平成 22 年の 56 万 6 千人から約 20%減少。今後も新型コロナウイルスの影響等により、運行本数の減便や利用者数の減少が想定される。

○交通系 IC カード (ICOCA や PiTaPa 等) は、令和 3 年に胡麻駅以南及び綾部駅のみに導入。

○駅再生プロジェクトにより、和知駅および山家駅周辺については整備が進んでいるものの、そのほかの駅については喫茶店や一時利用できる駐車場といった駅機能以外の施設立地が少ない。



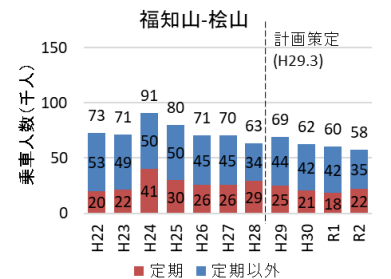
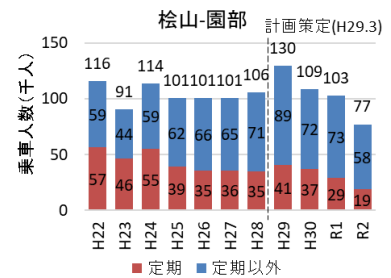
○新型コロナウイルス等の影響により、令和3年10月のダイヤ改正で、土休日の列車ダイヤの見直し計画がある。

■バス（基幹交通）：西日本ジェイアールバス園福線

○基幹交通バス(西日本ジェイアールバス：園部駅～桧山～福知山)は、園部駅～桧山間で13往復、桧山～福知山駅間で7往復運行。

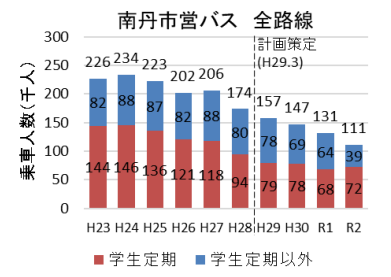
○平成22年の乗車人員は、園部駅～桧山間は11.6万人、桧山～福知山駅間は7.3万人であったが、令和2年では、園部駅～桧山間は7.7万人、桧山～福知山駅間は5.8万人と、2～3割減少している。

○西日本ジェイアールバスでは、交通系ICカードの利用が可能。

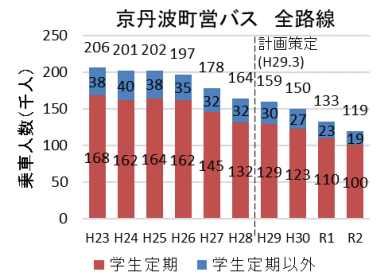


■バス（区域内交通）

○京阪京都交通は、明治国際医療大学から阪急桂駅(平日のみ・上下計6本)及び園部大橋(平日のみ・上下計11本)への路線のほか、観光向けの季節運行路線として美山町自然文化村から京都駅・京阪七条駅(1往復)への路線がある (R3年9月時点運休中)。



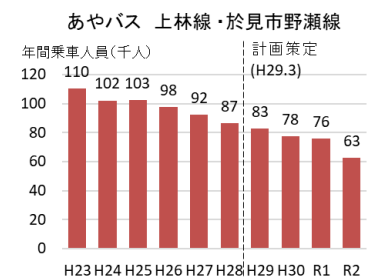
○南丹市は市営バス、「ぐるりんバス」及びデマンドバス、京丹波町は町営バス、綾部市は「あやバス」を運行。南丹市営バスおよび京丹波町営バスは、市町域外まで運行。



○市町営バス路線の多くは、学生定期での利用が6～7割程度以上を占めている。

○利用者数はほとんどの路線で、横ばいまたは減少傾向。

○中型ノンステップバスの導入によりバス車両のバリアフリー化が進められてきたが、利用者数の減少を受け、バリアフリー対応の中型バスから乗降口にステップを有する小型車両(マイクロバス等)への置き換えが行われている路線もある。



○バス路線の乗り入れがある鉄道駅は、日吉駅、鍼灸大学前駅、胡麻駅、下山駅、和知駅、立木駅、山家駅の7駅。

○船岡駅、安栖里駅については、周辺道路上に停留所がある。

○路線バスの運行本数は限られており、土曜・休日は減便または運休となる路線が多い。

■高速バス

○計画区域内の京都縦貫自動車道を運行する路線があるが停車はない。

○京丹波PA(味夢の里に隣接)への停車も検討されたが、混雑時には流出入が難しいこと、バス利用者向けパークアンドライド駐車場の確保が難しいことなどの課題がある。

■福祉有償旅客運送

- 3市町の特定の地域において、地元団体によって運行している。
- 運転手不足が課題となっている。

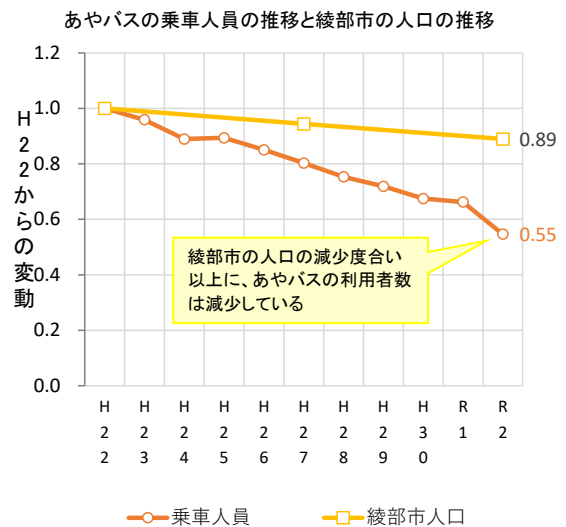
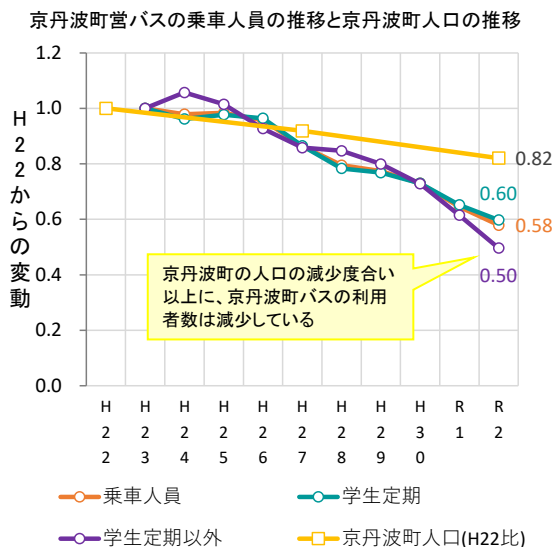
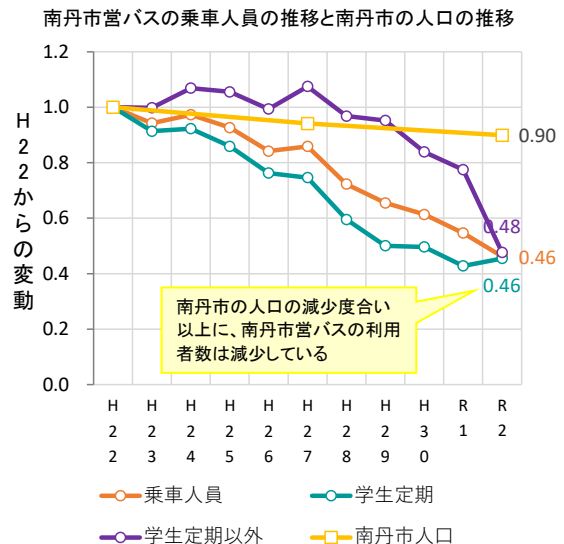
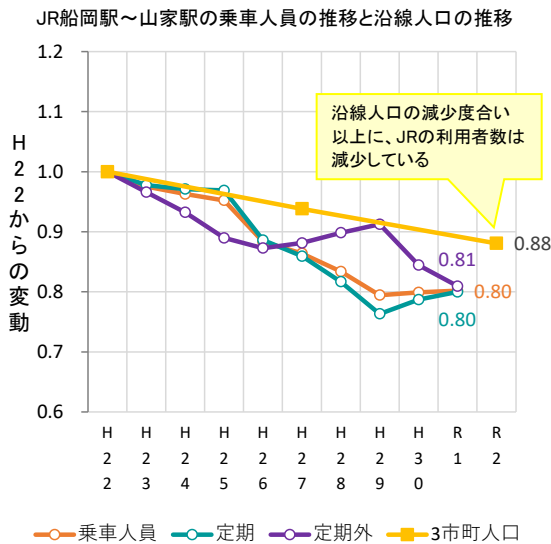
■地域主体の運送

- 京丹波町の竹野地区で、「コミュニティ・カーシェアリング」が令和3年6月に本格導入された。

■タクシー

- 京丹波町の和知地区を除いて、各地域に営業所が立地している。
- 沿線地域内のタクシー事業者の車両数は計37台と少なく、全域をカバーできていない。
- 運転手不足が課題となっている。

<参考：各公共交通の利用の推移と沿線人口の推移>



3. JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域の現況からみた問題点

3.1 計画区域の現況からみた問題点

◇若い世代を中心に、人口減少や他地域への流出が発生

- 若い世代の人口の著しい減少とこれに伴う高齢化により、生活関連施設や地域コミュニティの維持が困難となる可能性がある。
- 自動車依存度が高く、通勤・通学目的の公共交通利用者が減少している。
- 社会増減では、3市町ともに20～24歳の転出超過が顕著であり、また大学が立地しない綾部市や京丹波町では15～19歳にも一定数の転出超過が見られることから、就職ならびに進学を機に地元から離れる若者が多いと推察される。

◇公共交通が不便な地域などで、後期高齢者割合が増加

- 75歳以上の後期高齢者割合が増加し、公共交通が不便な北部地域では4割を超えている。今後は団塊世代が75歳以上を迎えるため、更なる後期高齢者割合の増加が予想される。
- 後期高齢者になると身体機能の低下などから、自動車の運転の危険性が高まる。

◇生活関連施設の立地は、駅周辺ではなく旧市街地や国道沿道に集中

- 商業施設(スーパー等)、医療施設(病院)は、南丹市園部町や綾部市の中心市街地、京丹波町内の国道9号沿道に集中して立地しているなど、自動車利用が前提となった都市構造になっている。

◇自動車利用が前提となった生活・観光スタイル

- 1世帯当たり2台前後自家用車を保有していることから、自動車利用を前提とした生活スタイルが浸透していると考えられる。自家用車を利用できる住民にとっては、公共交通を利用する機会は限定される。
- かやぶきの里や森の京都事業、京都縦貫自動車道の整備等により、当該地域の観光入込客数は増加傾向にあるが、公共交通機関を使った来訪は訪日外国人や周遊バス利用者に限られる。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光入込客数の減少、観光地行きの公共交通の利用者数は減少している。

3.2 公共交通の現況からみた問題点

(1) 公共交通全般における問題点

◇公共交通利用者数の減少により公共交通のサービスレベルの維持・存続が困難

- 計画区域内の公共交通は、民間交通事業者による路線バスに加え、自治体が主体となり運行する路線バス(南丹市営バス、南丹市ぐるりんバス、京丹波町営バス、あやバス等)、デマンドバス、タクシー、福祉有償運送等がある。しかし人口や利用者数の減少により、これら生活交通のサービスレベルを維持することが近い将来困難になりつつある。
- バス路線の一部では既に減便が実施されている。
- 路線バスやタクシーについては、運転手不足も大きな課題となっている。

◇鉄道駅での交通結節機能が弱い、駅機能以外の施設が少ない

- 鉄道駅やバス乗継箇所の多くは無人であり、駅再生プロジェクトにより和知駅・山家駅周辺の整備は進んでいるものの、そのほかの駅については未だ整備が進んでおらず、生活利便施設等の立地は不十分である。
- 鉄道駅周辺には一時利用できる駐車場が少なく、また、タクシーは営業所や台数が限られ計画区域全域をカバーできていない状況にある。こうした状況もあり、JR利用者の駅へのアクセスは家族などによる送迎が主体となっている。
- 路線バスは日吉駅、鍼灸大学前駅、胡麻駅、下山駅、和知駅、立木駅、山家駅にのみ乗り入れている。それ以外の駅には乗り入っていない。

◇JR園部駅～綾部駅間の鉄道のサービスレベルは高くない

- JR山陰本線の園部駅以北の運行本数は、亀岡駅～園部駅間と比べても半数以下であり、胡麻駅以北では更に減少する。特急列車もほとんどが園部駅、綾部駅のみの停車である。こうした状況から居住地の最寄り駅ではなく、運行本数の多い園部駅や綾部駅を利用するケースが見られる。
- 交通系ICカードは、令和3年3月より胡麻駅以南および綾部駅で利用可能となり、一定程度利便性が向上した。

(2) 通勤・通学における問題点

◇公共交通による通学では、通学先の多様な選択ができない地域もあり、通学手段として利用しにくい

- 南丹市営バスや京丹波町営バスの多くの路線は、6時台以前の早朝や19時以降の夜間、また土曜休日の運行が少なくなるため、市町域外への通勤・通学利用や、域外からの来訪者の利用には適さないと考えられる。
- 小学校や中学校、高校へはスクールバスや通学時間に合わせた市町営バス等の運行がある。これら通学時以外の児童・生徒や自動車や二輪車を利用できない大学生は、路線バス等を利用して移動することになるが、前述の通り早朝や夜間、土曜休日の運行が限られており、居住地や目的地によっては部活動、塾、習い事等のための利用はできない状況にある。こうした状況から鉄道駅までのアクセス手段として、家族の送迎が前提となっている場合も多く、家族への負担も大きい。
- こうした状況は、進学先の選択肢を狭めたり、進学時に地元を離れたりする要因となる可能性がある。

(3) 日常生活交通における問題点

◇高齢者の公共交通利用に対する潜在的ニーズは高い

- 府内の全交通事故発生件数に対する高齢者の交通事故発生件数割合は増加傾向にあり、高齢者が関係する交通事故への対策が求められる。
- 75歳以上人口は今後も増加すると見込まれており、自動車の運転ができなくなった高齢者や運転免許証の自主返納を検討している方の移動手段の確保が急務である。

- 自動車を運転できなくなったら公共交通を利用したいという意向は強いが、運行本数や行き先などの設定を問題としている住民も多い（H27 年度実施の「南丹市の路線バス交通に関するアンケート調査」結果より）。
- タクシー車両を活用した新たな交通手段の検討を行ったが、運転手不足により実現には至っていない。

◇生活関連施設等への移動は自動車利用が前提となった都市構造で、公共交通を使った買い物や通院が困難

- 商業施設（スーパー等）、医療施設（病院）は、南丹市園部町や綾部市の中心市街地、京丹波町内の国道9号沿道に集中して立地しているなど、自動車利用が前提となった都市構造になっている。（再掲）
- 通院については、鉄道やバスの乗継を行えば、複数の病院に通院することが可能であるが、公共交通間の乗継を苦痛と感じている高齢者もいるため、乗継なしで移動できる交通手段・交通網の整備が望まれる。

◇コロナ禍による外出機会の減少

- 日常の食料品購入などにも通信販売や宅配を利用する人が増え、また、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出機会の減少、延いては公共交通需要の縮小に繋がっている。
- 新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立っていないため、公共交通利用者数の回復の目途も立っていない。

(4) 観光・交流交通における問題点

◇観光地への公共交通網が弱く、公共交通を使った観光が困難

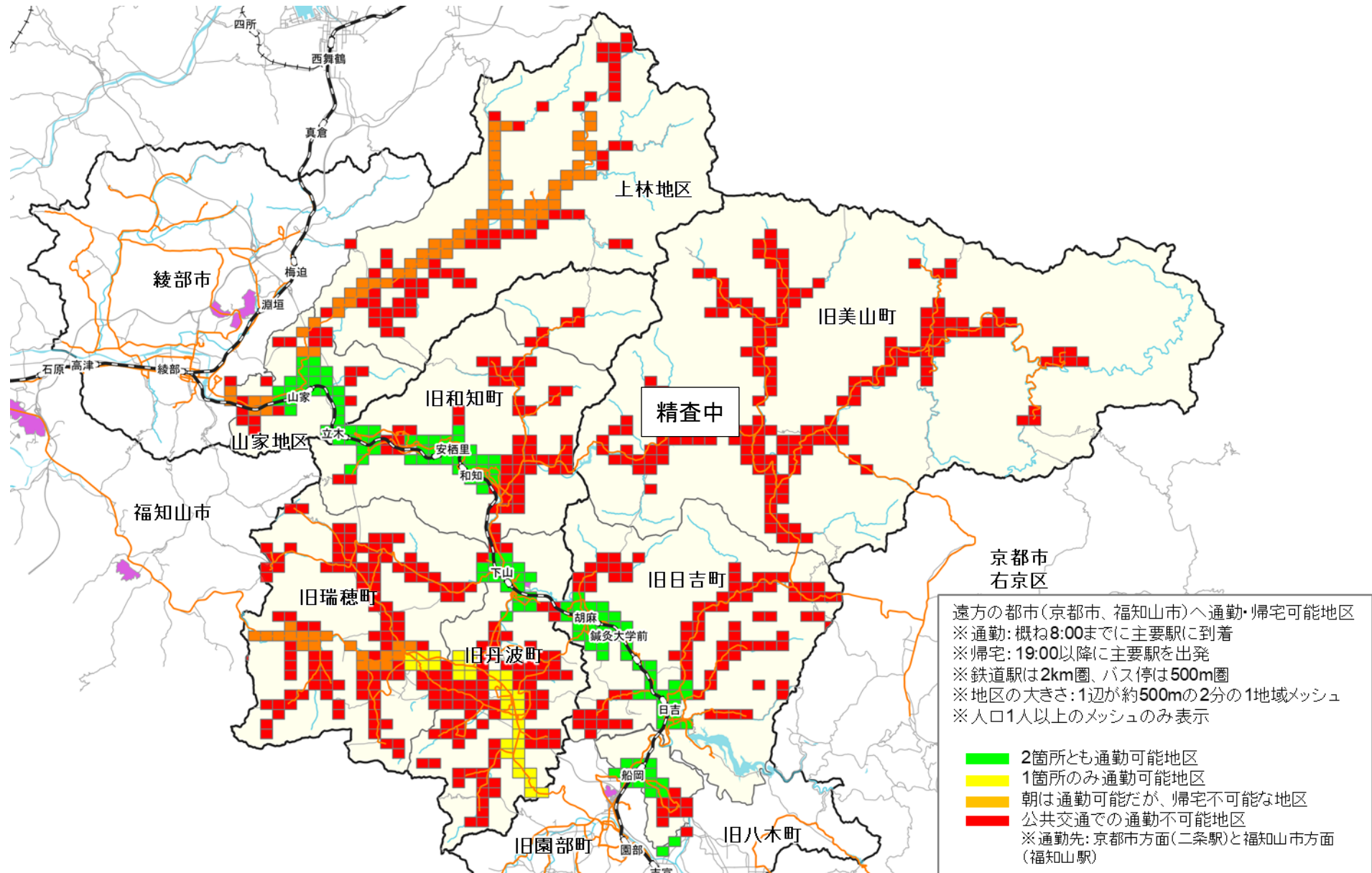
- 計画区域内を公共交通で観光周遊することは、運行本数の僅少さから困難な状況である。一方、観光客からの地域内周遊観光のニーズは高い。
- 駅に接続するバス路線は、土休日に減便または運休するため、休日の来訪者にとって、公共交通での訪問が困難な観光地も存在する（京丹波町営バス沿線等）。
- 旧質美小学校（京丹波町（旧瑞穂町））などの魅力的な観光施設もあるが、鉄道駅と観光施設とを結ぶバス運行本数は限られている。
- 外国人観光客を含め遠方からの観光客は鉄道利用が想定されるが、鉄道駅を起点とした公共交通網や鉄道駅での観光情報等の発信が不足している。
- 新型コロナウイルス感染症拡大前は、南丹市美山町のかやぶきの里を中心に、観光分野は活発であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、観光入込客数は大幅に減少している。
- 京都縦貫自動車道の全線開通に伴って供用が開始された京丹波パーキングエリア（道の駅「京丹波 味夢の里」を併設）の周辺では、隣接するホテル（Fairfield BY MARRIOTT 京都京丹波）の開業（令和2年10月）等の機能充実が進んでおり、同パーキングエリアを活用した高速バスストップと新たな公共交通ネットワークの可能性が生じている。

◇公共交通のわかりやすさの強化

- 公共交通を使った観光促進に向けて、観光地でのモデルコース設定や交通手段の整備、バスシステムのナンバリング、Google マップへの登録等が進められてきた。ただ、区域内を観光にするにあたっては、公共交通を乗り継ぐ必要があり、今後も継続して乗継拠点や観光地における公共交通に関する情報の見せ方の工夫等が求められている。
- 観光客は移動途中もスマートフォン等で情報を収集することから、現地での情報案内の内容・見せ方の工夫だけでなく、インターネットでの情報発信の強化やMaaS等の進化したデジタル技術を活用した公共交通への変容が求められている。

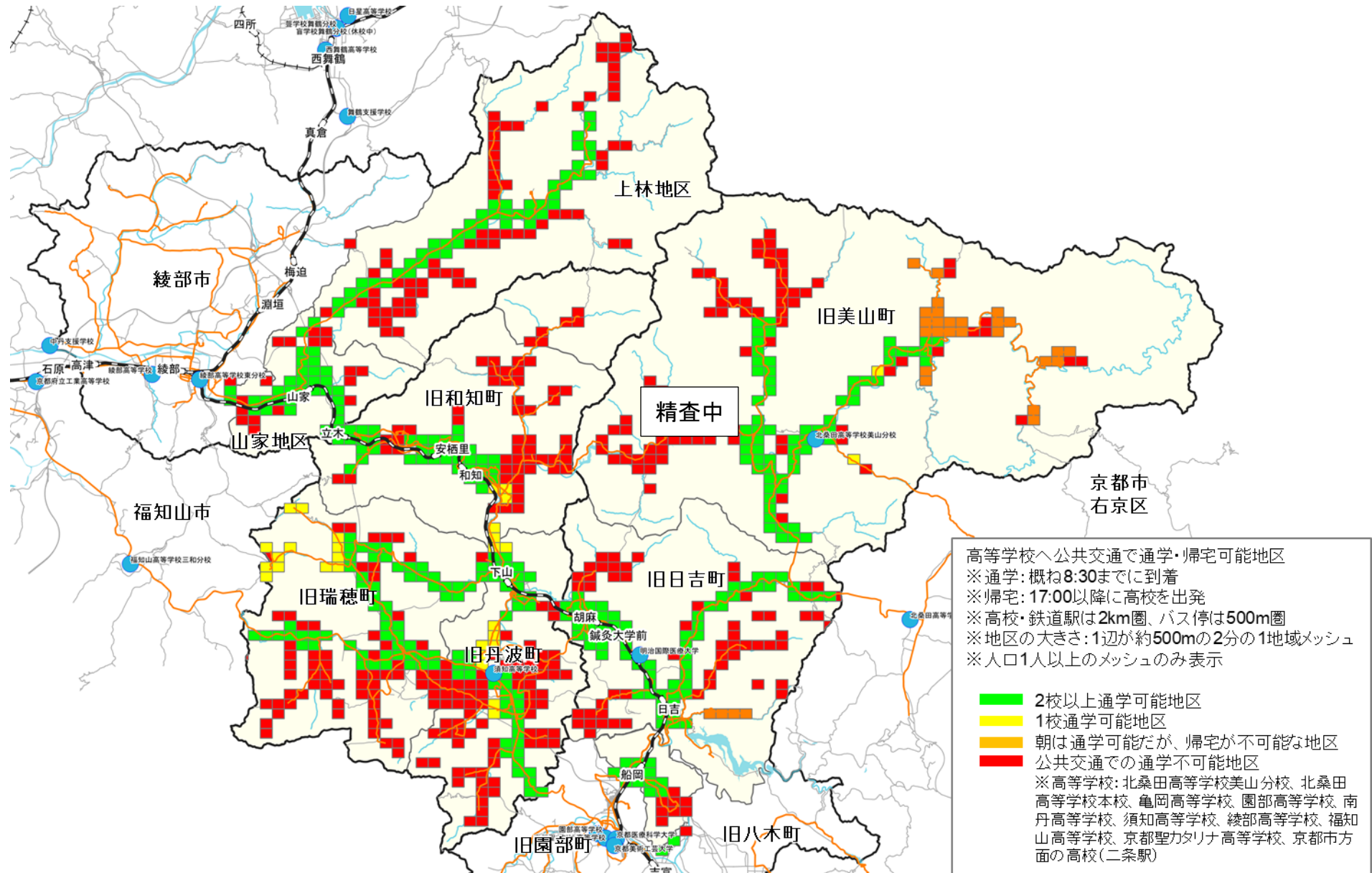
<通勤交通の状況>

京都市・福知山市へ公共交通で通勤・帰宅可能な地域



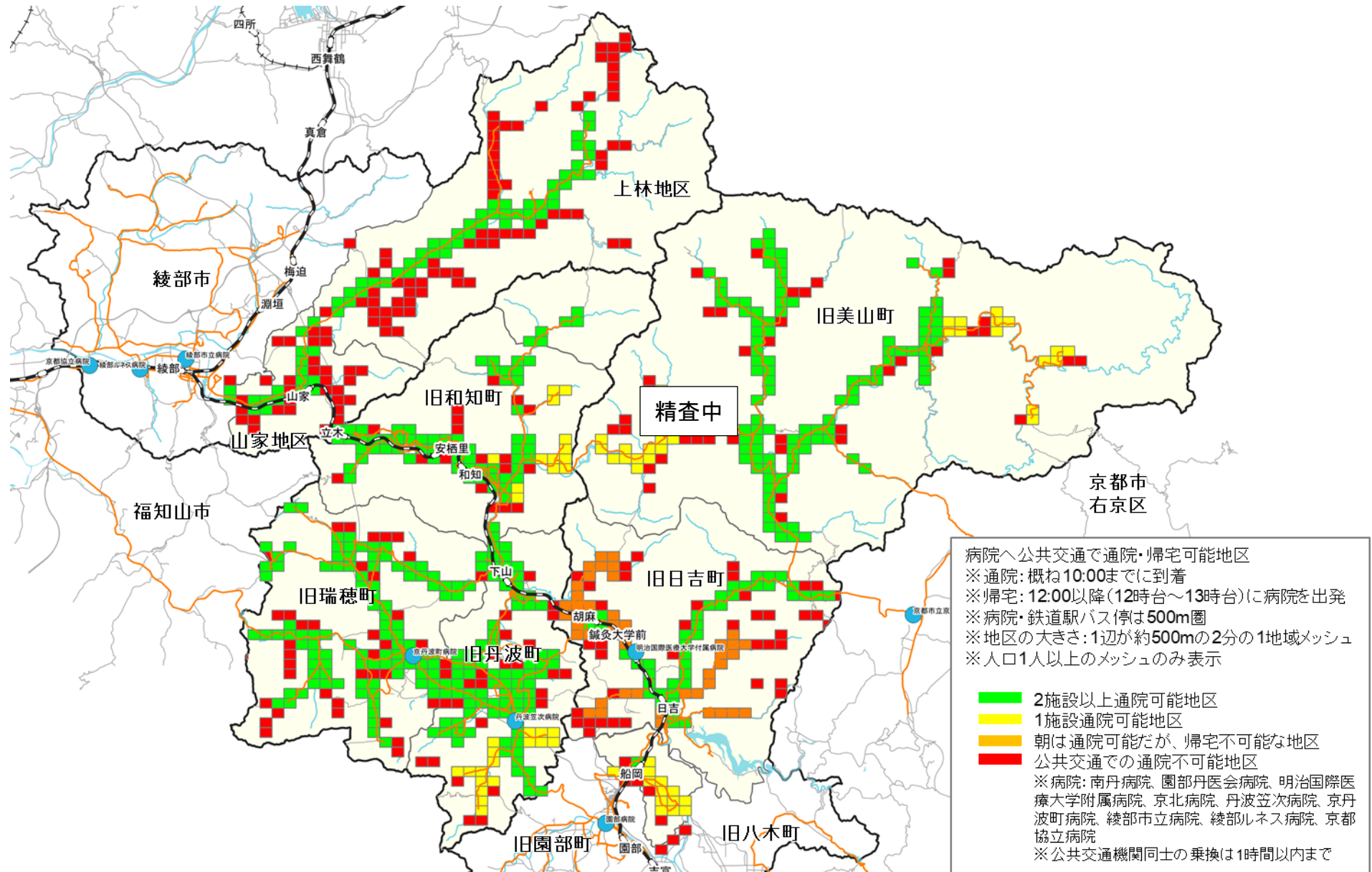
<通学交通の状況>

高等学校へ公共交通で通学・帰宅可能な地域



<日常生活交通の状況>

病院へ公共交通で通勤・帰宅可能な地域



<観光交流交通の状況>

上中



4. 地域のニーズ把握（未更新）

- 4.1 住民アンケートから把握された現況・ニーズ
- 4.2 駅利用者アンケートから把握された現況・ニーズ
- 4.3 交通事業者等の関係者ヒアリング調査から把握された現況・ニーズ
- 4.4 地元関係者との意見交換会から把握された現況・ニーズ

5. 地域公共交通網形成計画での実施状況（作成中）

地域公共交通網形成計画で示した各施策の実施状況を、基本方針ごとに整理する。

①通勤・通学の利便性を高めるべく、鉄道を中心とする公共交通サービスの改善を進め、JR山陰本線（園部～綾部）の複線化につなげる。

施策	施策の主な対象	進捗	今後の対応
パークアンドライドの促進	通勤・通学交通	○	駐車場台数整備は一定完了。駐車場契約者（＝鉄道利用者）を増やすための活動を進める。
夜間時間帯の乗合タクシーの導入		○	ドライバー不足と夜間利用者減少により、施策の必要性を再検討。
バスロケーションシステムの導入		○	静的データの登録は完了。動的データのGTFS化を目指す。バスロケだけではなく、デジタル技術を活用した情報提供の推進へ発展させる。
モビリティ・マネジメントの実施		○	鉄道利用に向けた働きかけは、継続実施。

◎:完了または目標達成、○:完了には至っていないが事業が進んでいる、×:未着手

②日常生活の拠点となる施設や公共交通の乗継拠点となる鉄道駅、道の駅、バスの駅の再生整備を進め、それらのネットワーク化を図る。

施策	施策の主な対象	進捗	今後の対応
JR山陰本線のサービスレベルの向上	日常生活交通	◎	新型コロナウイルスの影響が大きいため、サービスレベルの維持に向けた協議を継続。
交通系ICカードシステムの導入		○	一部の駅を除き導入済み。全駅導入に向けた協議を継続。更に駅端末交通手段でのキャッシュレス化や目的地までの支払いのシームレス化へ発展させる。
小さな拠点整備とあわせた乗継拠点の整備		○	バスの乗継拠点での整備を推進する。また、乗継拠点である園部駅の改善をシンボルプロジェクトとして検討。
駅再生プロジェクトの推進		◎	駅前施設を活用した地域の賑わいづくりや鉄道利用に向けた働きかけを継続実施。
パークアンドライドの促進		○	引き続きチラシ掲示等休日の駐車場利用者（＝鉄道利用者）を増やすための活動を進める。

その他(具体的施策に記載のなかったこと)	—	○	駅周辺のまちづくりとの連携
----------------------	---	---	---------------

◎:完了または目標達成、○:完了には至っていないが事業が進んでいる、×:未着手

③地域内での子育て世代の定住や移住を促進する観点から、若者が使いたくなる公共交通網の整備を進める。

施策	施策の主な対象	進捗	今後の対応
魅力的なバス・タクシー車両・駅舎・バス停の導入	日常生活交通 (通勤・通学交通)	○	使いたくなるような＝認知される・理解できることが重要なので、公共交通に不慣れな人でも分かるようなデザイン等の導入、統一感の創出を図る。
子育て世代に対する運賃施策の導入		◎	通学運賃補助制度の継続(計画の施策として位置づけるかは要検討)
モビリティ・マネジメントの実施		○	学生、受験生等への公共交通利用に向けた働きかけを継続実施。
その他(具体的施策に記載のなかったこと)	—	○	わかりやすい運賃制度への改定など子育てや移住を支援する機能を拡充・自動車がなくとも不便を感じることはない・計画区域内を動き回れる環境整備情報提供・休暇中の周遊バス

◎:完了または目標達成、○:完了には至っていないが事業が進んでいる、×:未着手

④高齢者が安全に移動できる仕組みづくりを進める。

施策	施策の主な対象	進捗	今後の対応
人、モノ、コトの総合的な輸送サービスの導入	日常生活交通	×	ニーズ調査が必要
高齢者の新たな外出手段の導入		○	行政主体ではなく地域主体の移動支援仕組みづくりへ。(コミュニティ・カーシェアリング等)
ICTを活用したお出かけ情報等の提供		○	MaaS等、最新のデジタル技術を活用した利便増進事業へ発展させる。
モビリティ・マネジメントの実施		○	公共交通利用や免許返納に向けた働きかけは、継続実施。

◎:完了または目標達成、○:完了には至っていないが事業が進んでいる、×:未着手

⑤観光・交流の視点から来訪者に使いやすい、分かりやすい施設整備を進める。

施策	施策の主な対象	進捗	今後の対応
体系的な観光情報・公共交通情報の案内	観光・交流交通	○	バスシステムのナンバリングや地域全体としての統一感等、広域的な観光・交流の促進を支える体系的な施設整備を継続。
鉄道駅と観光拠点を結ぶ公共交通手段の整備		○	観光タクシーやレンタサイクルの利用促進等を継続するとともに、MaaS等、最新のデジタル技術を活用した利便増進事業へ発展させる。
駅やバス停を起点とした観光周遊や体験型観光との連携		○	継続実施。

◎:完了または目標達成、○:完了には至っていないが事業が進んでいる、×:未着手

⑥高速道路のパーキングエリアやまちづくりを考慮した交通体系の検討を進める。

施策	施策の主な対象	進捗	今後の対応
京丹波PAでの高速バス停及びアクセス交通の整備	観光・交流交通 日常生活交通	○	事業継続は要検討

◎:完了または目標達成、○:完了には至っていないが事業が進んでいる、×:未着手

6. 地域内の地域公共交通等の課題

以上のような問題点や網形成計画の実施状況等を踏まえ、計画区域における地域公共交通等の課題を次のように整理する。

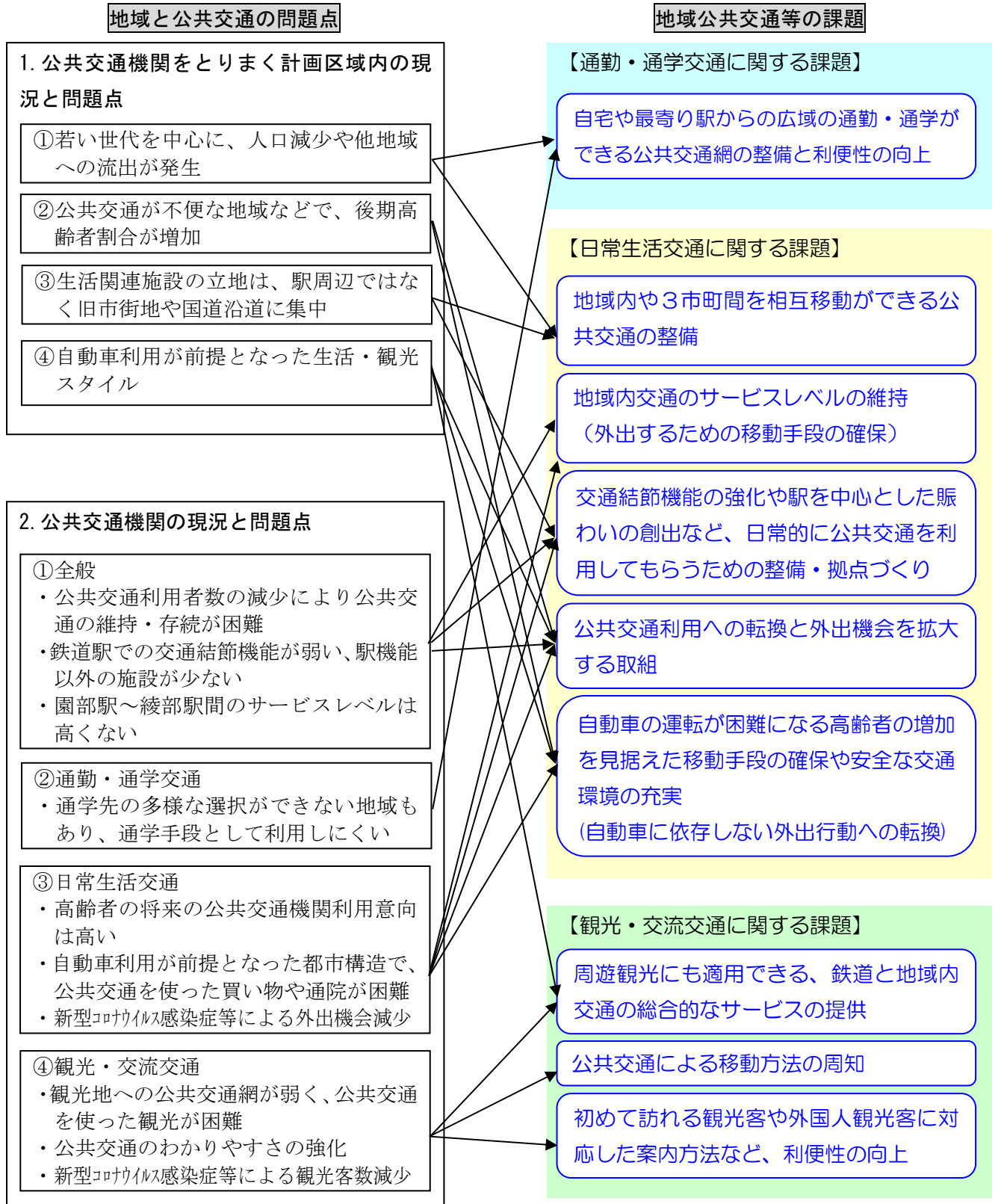


図 1 地域公共交通の問題点と網形成に向けた課題

7. 地域の上位計画の方向性

計画区域の地域は、上位・関連計画において、下図のように位置付けられており、地域公共交通網形成を検討するに際し、これらのまちづくりの方向性を踏まえる必要がある。

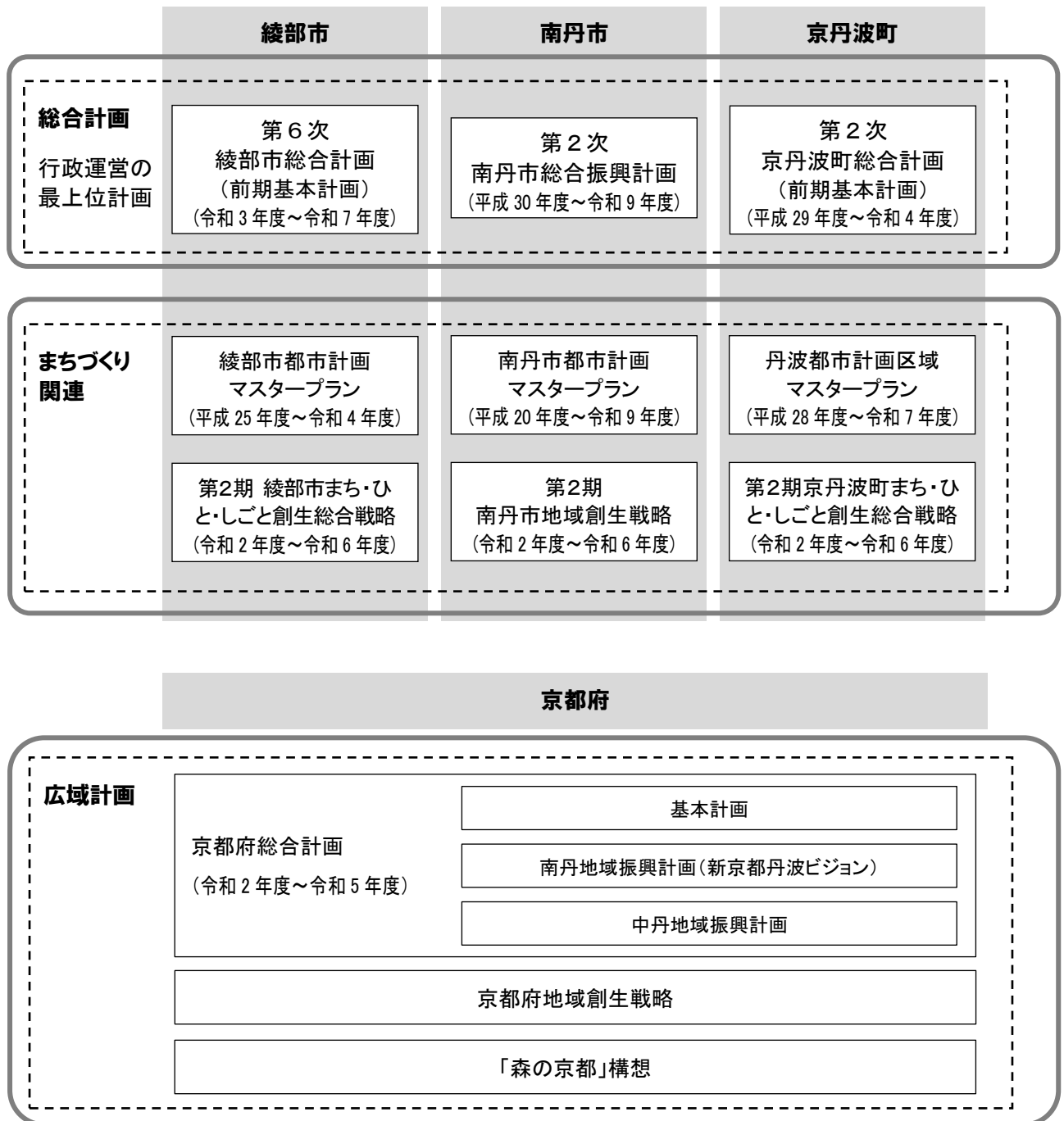


図 上位計画・関連計画

3市町の既往計画で共通して挙げられている目標は、少子高齢化社会への対応、地域コミュニティの維持、広域的な交流や連携を図ることであり、その実現に向けて次のような政策の方向性が示されている。

- ◇出産・子育て環境の充実
- ◇産業の創生や基盤強化による地元雇用の確保
- ◇人・地域の交流を支える拠点・ネットワークづくり
- ◇観光交流の推進
- ◇暮らしの安全と安心の確保
- ◇次代を担う人材育成

3市町とも、総合計画や総合戦略の中で、上記のような政策の方向性を実現するための方針のひとつとして、公共交通の維持・充実や地域ニーズに沿った新たな移動・交通システムの検討を挙げている。

8. 地域公共交通計画の基本方針

8.1 計画の基本的な方針

JR山陰本線（園部～綾部）沿線地域は、自動車利用を前提としたライフスタイルが定着し、自動車を持たない住民にとっては、暮らしにくい状況となっている。また、公共交通のサービスレベルが十分ではない地域や時間帯があり、通勤・通学・通院などの外出先を自由に選択できない点や、後期高齢者の増加に比例して高齢ドライバーも増加することから地域の暮らしの安全確保が問題となっている。

そこで本計画では、将来のまちづくりを実現する基幹公共交通網等の形成（上位計画の実現・地域課題の解消）により、子どもからお年寄りまで全ての住民が豊かに生活でき（住み続けることができ）、子育てしやすい、地域間の交流がしやすい、観光客が来訪したい、移住者が移り住み続けたいまちづくりを支援する公共交通の実現を目指す。

8.2 計画の目標…目指すべき地域公共交通の将来像

本計画では、基本的な方針に基づき、地域住民の様々な移動シーンにおいて、気軽に利用可能で、移動先の選択の幅を広げるような、また来訪者や移住者に対しては、次もこの地域に来たくなるような、この地域に住み続けたいくなるような公共交通の実現を目指すものとする。

安全安心で豊かな暮らしを支え、交流・定住・まちづくりを進める公共交通の実現

8.3 施策の基本方針

上記の将来像の実現に向けた公共交通に関する施策の基本方針を、次のように定める。

①JR山陰本線（園部～綾部）を中心とした公共交通サービスの改善を進め、利用者数増加や鉄道複線化につなげる

- ・JR山陰本線については、鉄道を中心とする公共交通サービスの改善を進めることで、広域的な通勤・通学移動の利便性を高め、この地域に住み続けながら、快適に学び・働ける交通環境を目指す。最寄り駅での利用を促進するため、駐車場の整備、駅待ち環境の整備などのサービス改善を行い、将来的には園部～綾部の複線化につながる利用者増を目指す。
- ・基幹交通バスである西日本ジェイアールバス園福線については、バス待ち環境の整備やバス車両の更新など快適な利用環境の整備を進める。
- ・鉄道駅から自宅までの帰宅手段確保として、乗合タクシー導入に向けた研究を進める。

②日常生活の拠点となる施設や公共交通の乗継拠点となる鉄道駅・バス停等の整備を進め、それらのネットワーク化を図る

- ・日常生活の拠点となる施設と公共交通の乗継拠点を組み合わせ、公共交通機関同士の結節機能の強化を図る。
- ・鉄道駅等の交通結節点については、快適に待ち時間を過ごせるように、“照明（安全性・

防犯性向上)” “バス待合施設(テーブル)” “ネット環境(Wi-Fi)” “電源(コンセント)” の4項目を重点整備項目として、人が集い・安らぐ交通結節点としての再生を図る。

③自動車を運転できなくても安心して生活できるように、買い物や通院等が可能となる公共交通サービスを実現する

- ・地区内を運行するバスのサービス維持・改善を進めることで、地域内の通院や買い物移動の利便性を高め、自動車を運転できなくなっても安心して住み続けられる交通環境を目指す。
- ・今後の高齢化の進行も見据え、運転免許返納の環境づくりも視野に入れ、元気なうちに公共交通利用の習慣付けを行う啓発活動や、公共交通利用環境の整備・改善など、高齢者が安全に利用しやすい公共交通網・交通環境の構築を図る。

④公共交通を次世代に残すために、地域の関係者が協働し、支え育む活動を進める

- ・少子高齢化の進展や生産年齢人口が減少する中、既存の公共交通を持続的に維持するためには、行政や交通事業者だけではなく、市民や地元企業等の関係するすべての方が一丸となり取り組むことが必要である。そのため、市民等と協働して沿線全体で公共交通サービスを支える意識の醸成や利用促進を図る。
- ・小学校～大学や移動手段でお困りの方と連携したモビリティ・マネジメントの実施により、沿線全体の公共交通利用促進を図る。また、移動手段でお困りの方に対しては、定期的に懇談会等を開催し、問題点を把握する。

※モビリティ・マネジメント：Mobility Management

公共交通の利用促進のために、利用者に対し、公共交通の利用が環境、安全、各個人の健康等に好影響をもたらすことや、公共交通の便利な利用方法等を効果的に情報提供することにより、交通行動をマイカーから公共交通利用へ自発的な転換を期待するコミュニケーション施策の総称。

⑤地域内や地域間の交流促進に向けて、分かりやすく使いやすい施設整備を進める

- ・鉄道駅を起点として使いやすいダイヤ、分かりやすい案内など、広域的な観光・交流の促進を支える体系的な施設整備を進める。
- ・観光客等の公共交通利用促進に向け、ホームページでの公共交通や観光の情報発信、多言語化を進める。
- ・森の京都事業等による新しい交通手段や電動アシスト自転車等の導入を進め、計画区域内を楽しく快適に、風を感じながら周遊できる交通環境の構築を図る。
- ・若い世代が活発に活動でき、地域の賑わいや世代間の交流の活性化に向けて、学生が計画区域内を動き回れる環境整備・情報提供を進める。また、夏休み期間中に使用できる周遊バスなどの開発を研究する。

地域公共交通等の課題

将来像の実現に向けた施策方針

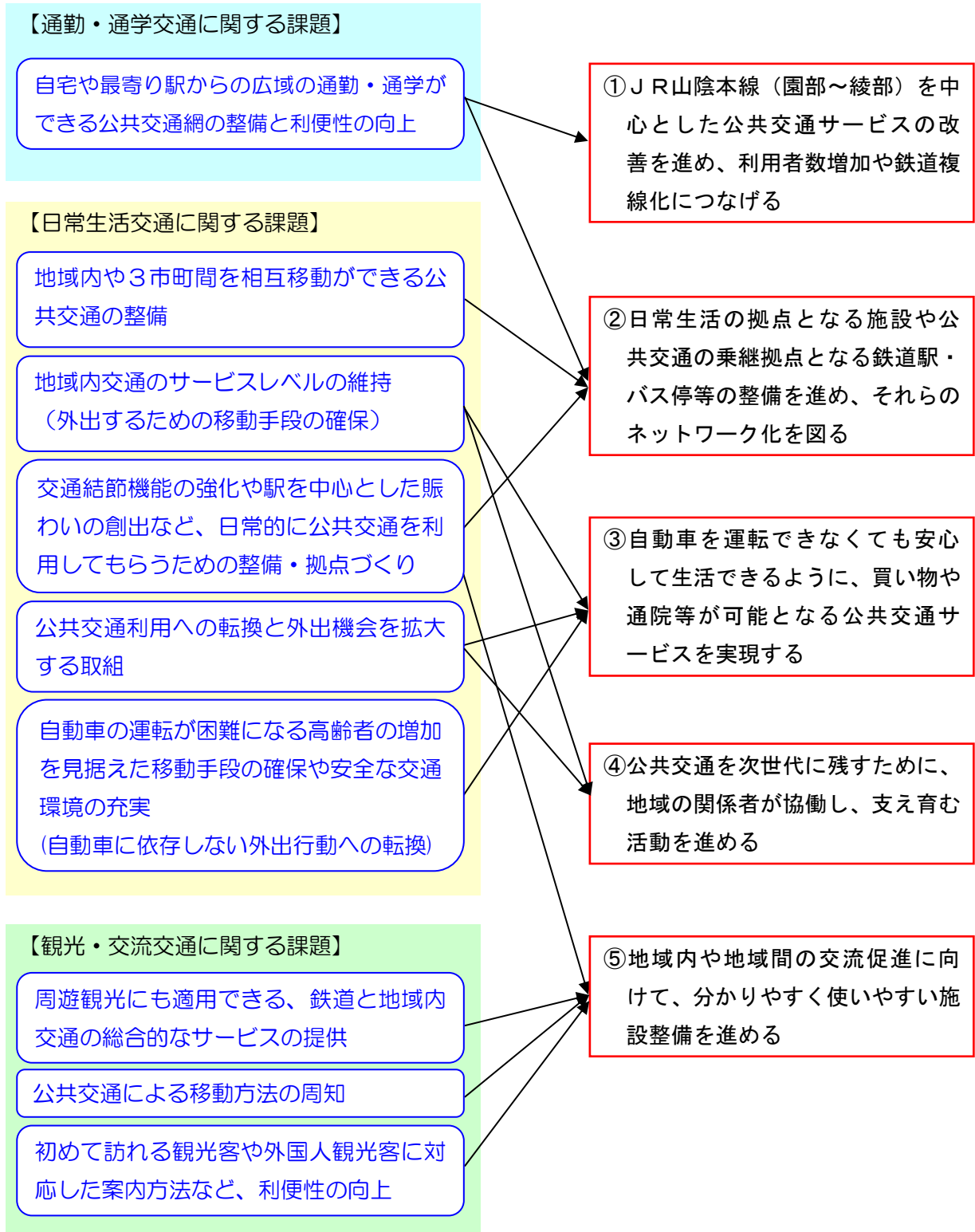


図 1 地域公共交通の課題と将来像及び実現に向けた基本方針の対応

8.4 地域公共交通の位置づけと役割

目指すべき地域公共交通の将来像の実現に向けて、本計画で対象とする公共交通とその役割を次のように定める。

表 1 本計画で対象とする公共交通と役割

役割・位置づけ	公共交通の種類		
基幹的な役割	鉄道	JR 山陰本線	
	バス	西日本ジェイアールバス	園福線
拠点間を結ぶ幹線的な役割	バス	南丹市営バス	美山園部線、大野線
		京丹波町営バス	丹波和知線、丹波桧山線 桧山和知線、丹波日吉線
支線的な役割	バス	あやバス	上林線、於見市野瀬線
		南丹市営バス	五ヶ荘線、世木線 胡麻線、志和賀線 日吉ダム線、京北線 鶴ヶ岡線、福居線 知井線、芦生・佐々里線 河内谷線、知見線
		京丹波町営バス	高山下山線、竹野線 小野鎌谷線、質美線 猪鼻戸津川線、道の駅和線 仏主線、長瀬線 才原大簾・才原線 上乙見線
個別輸送	スクールバス	3市町で運行しているスクールバス	
	デマンドバス	南丹市デマンドバス	日吉地域デマンドバス 美山地域デマンドバス
	福祉有償運送	3市町で運行している有償運送	
	タクシー	民間タクシー	

※その他対象路線として、京阪京都交通及びぐるりんバス（南丹市）を検討中。



図 3市町の公共交通体系の骨格イメージ

9. 施策目標の達成状況を評価する数値目標（更新作業中）

本計画における評価指標及び目標値を示す。

検討中

10. 課題解決と上位計画実現のための具体的施策(見出しのみ)

計画区域における交通課題解決と上位計画の実現に向けた具体的施策を示す。

【次期計画】 計画の目標・方針の案			施策の主な対象	施策の案	取組内容の案
(将来像)	(施策方針)	(目標)			
安全安心で豊かな暮らしを支え、交流・定住・まちづくりを進める公共交通の実現	①JR山陰本線(園部～綾部)を中心とした公共交通サービスの改善を進め、利用者数増加や鉄道複線化につなげる	①広域への通勤通学も可能な公共交通サービスの維持・確保	全般	JR山陰本線のサービスレベルの維持・向上	JR山陰本線のサービスレベルの維持・向上
			通学交通	高校生の帰宅時間帯に運行する移動手段の導入	主要駅等での予約型乗合タクシーの導入(胡麻駅、和知駅、桧山バス停で18時台または19時台の出発便を導入)
		②シームレスな移動が可能となるサービスの提供	観光・交流交通	3市町内をシームレスに移動できる仕組みづくり	3市町の全ての移動手段が利用できるデジタルフリーチケット(サブスクリプション)
			全般	交通系ICカードシステムの導入	胡麻駅～綾部駅間での交通系ICカードシステムの導入 あやバス・南丹市営バス・京丹波町営バスでの交通系ICカードシステムの導入
				公共交通同士の乗継状況の改善	鉄道とバスのダイヤ調整 バス同士のダイヤ調整
			②日常生活の拠点となる施設や公共交通の乗継拠点となる鉄道駅・バス停等の整備を進め、それらのネットワーク化を図る	③快適な公共交通結節点	通学交通
	日常生活交通	高齢者の利用の多い駅やバス停での交通結節機能の強化			上屋やベンチの整備・拡充 カフェやサロンの整備・拡充
		女性が安心して滞在することができる交通結節点の整備			(明るさ、洋式トイレ、美化清掃、防犯)
	長時間待っても楽しめる交通結節点の整備	Wi-Fi等(駅再生プロジェクトの水平展開)			
	公共交通のリアルタイム情報の提供	鉄道とバスの運行状況の発信・強化(動的データのGTFS化を活用)			
	観光・交流交通	手ぶら観光の支援			手荷物一時預かり所やコインロッカーの整備

【次期計画】 計画の目標・方針の案			施策の主な対象	施策の案	取組内容の案
(将来像)	(施策方針)	(目標)			
安全安心で豊かな暮らしを支え、交流・定住・まちづくりを進める公共交通の実現	③自動車運転できなくても安心して生活できるように、買い物や通院等が可能となる公共交通サービスを実現する	④主に昼間時間帯の地区内移動の維持・確保	日常生活交通	地区内交通(あやバス、南丹市営バス、京丹波町営バス、園福線)の運行内容の見直し	主な商業施設や医療機関を経由するバス路線への見直し(綾部市→マツモト綾部店前、南丹市→バザール園部店前 等)
				高齢者の帰宅時間帯に運行する移動手段の導入	主要駅等での予約型乗合タクシーの導入(日吉駅、胡麻駅、山家駅で17時台の出発便を導入)
				買い物や通院が公共交通で困難な地域での移動手段の導入や支援 (公共交通の空白地や不便地域での対策)	デマンドタクシーの導入
				・対象地域の例: 綾部市上林地区 等	自家用有償旅客運送の導入
					地域が主体となった移動手段の導入(コミュニティーシェアリング等)
					シニアカー購入の補助制度(または、乗換拠点でのシニアカー駐車施設整備)
					タクシーやバスで荷物を運ぶ(届ける)買い物支援事業(網形成計画の「人・モノ・コト」に該当)
				週末のサロン活動や朝市活動場所への移動手段の導入	自家用有償旅客運送の導入
	地域が主体となった移動手段の導入(コミュニティーシェアリング等)				
	日常生活交通	⑤自動車運転できなくても安心して移動できるサービスの提供	日常生活交通	子育て世代に対する運賃支援	妊産婦や育児中の方を対象とした子育てタクシーの導入と運賃支援
				運転免許証の自主返納への支援	高校生・大学生等への通学運賃補助制度の継続・拡充
					免許返納後の公共交通利用の支援(運賃補助) 主な移動先のダイヤ情報等を記載したマイ時刻表の作成
④公共交通を次世代に残すために、地域関係者が協働し、支え育む活動を進める	⑥地域全体で公共交通を支え育む意識の醸成	日常生活交通	モビリティ・マネジメントの実施	自治体職員に対するモビリティ・マネジメントの実施	
				中学3年生・高校3年生に対するモビリティ・マネジメントの実施	
				小中学生に対するモビリティ・マネジメントの実施	
				住民に対するモビリティ・マネジメントの実施	
				乗換ダイヤもわかりやすく掲載した公共交通情報冊子の各戸配布	
			地元住民や関係者との懇談会の実施	施策の主なターゲット層との懇談会の開催(タウンミーティングのようなもの)	
	地元高校生と協働した乗って支える運動の実施				

【次期計画】 計画の目標・方針の案			施策の主な対象	施策の案	取組内容の案
(将来像)	(施策方針)	(目標)			
安全安心で豊かな暮らしを支え、交流・定住・まちづくりを進める公共交通の実現	⑤地域内や地域間の交流促進に向けて、分かりやすく使いやすい施設整備を進める	⑦使いやすい分かりやすい情報提供	観光・交流交通	体系的な観光情報・公共交通情報の案内	地域公共交通に関するポータルサイトの構築や総合時刻表の作成
					外国人観光客向け情報冊子作成
		⑧若い世代の外出機会の創出(交流促進)	日常生活交通	若い世代が京都まで遊びにいける交通手段の導入	3市町共通(統一)のバス停デザイン、名称統一、バスナンバリング等(検索サイトの表示名との統一等も含む)
					園部駅での案内看板等の見直し(動線上の案内の連続性、行き先表示の統一等)
			車窓からの景観を意識したまちづくり		
			駅・バス停での観光案内・乗換案内の充実		
			訪日外国人向けの多言語化	駅から出発する交通手段や周辺の観光案内の多言語化	
			学校の夏休み期間中に、地域内を散策できる運賃施策の導入	地域内の拠点(学校等)を巡回し、園部駅まで運行する急行バスの運行(週末2往復など限定的に実施)	
				学生を対象とした、夏休み期間中のみ利用可能な地域内共通定期券の開発	

11. 計画の評価と推進体制（更新作業中）

11.1 評価の基本的な考え方

各施策は、JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会が主体となって実行する。

施策の実行にあたり、Action（改善・見直し）を確認しつつ、目標値の達成状況を

検討中

Check（検証・評価）、Actionに基づき、施策の実施状況を毎年確認し、社会情勢の変化などもふまえて、必要に応じて計画の見直しを行う。

11.2 推進体制

本計画は、JR 山陰本線の園部駅～綾部駅間の沿線を対象とし、綾部市、南丹市、京丹波町の3市町にまたがった計画である。目標の実現、施策の継続的な実施に向けては、施策実施を単一の自治体のみで実施するのではなく、関係者が連携し、

検討中

そのため、自治体間の連携を促進し、協議・調整できる体制づくりを行う。

地域の交通事業者、住民など、様々な関係者が連携し、

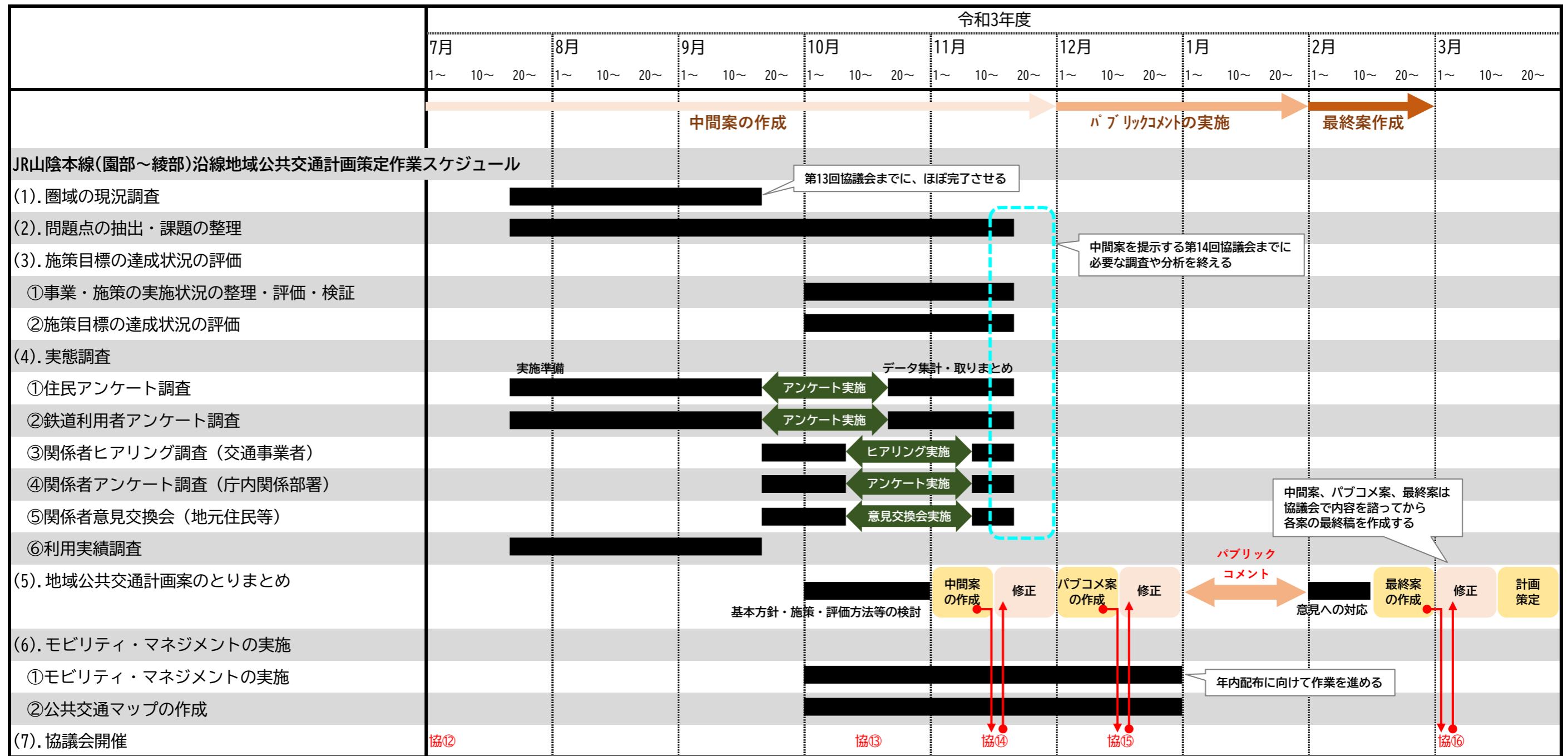
企業等が一体となって、継続的に協議・調整できる体制づくりを行う。

計画の評価、検証、見直し等は、JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会が主体となって実行する。

<今後のスケジュール>

○平成 29 年度

～平成 33 年度 1～3 月：当計画に基づく具体的施策・目標達成状況等進捗状況の報告



第13回協議会までに、ほぼ完了させる

中間案を提示する第14回協議会までに必要な調査や分析を終える

中間案、パブコメ案、最終案は協議会で内容を詰ってから各案の最終稿を作成する

パブリックコメント

年内配布に向けて作業を進める

中間案の作成

修正

パブコメ案の作成

修正

最終案の作成

修正

計画策定

意見への対応

公共交通に関する住民アンケート調査 調査計画書

1. 調査の目的

- ・圏域住民の移動実態及びニーズを把握するために実施する。

2. 調査の対象

- ・南丹市（八木町除く）、京丹波町（全域）、綾部市（山家地区と上林地区）にお住まいの15歳以上の方を対象とする。
- ・調査票は日本語で作成するため、調査対象は日本人に限る。
- ・調査対象の抽出は、各市町の住民基本台帳より無作為抽出する。

3. 配布数

（配布数を検討するための条件）

- ・公共交通を必要としているのは主に高齢者であるため、高齢者と非高齢者を区分して分析できるように計画する。
- ・圏域が広いため地区別の分析ができるように、旧町単位で配布数を計画する。
- ・各属性からの結果について、100回同じ調査をしたとき90回は許容誤差±10%の範囲の結果を得るためには約65人からの回答が必要である。

（配布予定数）

- ・配布数は下表のとおりであり、全体で3,200人への配布が必要となる。※回収率を40%と想定した。

表 3-1 アンケートの配布数

		世帯数	人口			配布数			配布率				回収数（回収率4割）			
			15-19歳	20-64歳	65歳以上	15-19歳	20-64歳	65歳以上	15-19歳	20-64歳	65歳以上	（世帯あたり）	15-19歳	20-64歳	65歳以上	
南丹市	園部地区	R3.4.1時点	7,212	790	8,497	4,544	75	250	250	9%	3%	6%	7%	30	100	100
	日吉地区	R3.4.1時点	2,097	167	2,045	1,950	50	250	250	30%	12%	13%	24%	20	100	100
	美山地区	R3.4.1時点	1,732	103	1,468	1,712	50	163	163	49%	11%	9%	19%	20	65	65
京丹波町	丹波地区	R3.4.30時点	3,036	313	3,190	2,670	75	250	250	24%	8%	9%	16%	30	100	100
	瑞穂地区	R3.4.30時点	1,901	130	1,682	1,844	50	163	163	38%	10%	9%	17%	20	65	65
	和知地区	R3.4.30時点	1,288	91	1,106	1,366	50	163	163	55%	15%	12%	25%	20	65	65
綾部市	山家上林地区	R3.3.31時点	1,592	97	1,219	1,792	50	163	163	52%	13%	9%	20%	20	65	65
合計		18,858	1,691	19,207	15,878	400	1,400	1,400	24%	7%	9%	—	160	560	560	
					36,776			3,200			9%	17%				1,280

4. 調査方法

- ・ 郵送配布、郵送回収
- ・ 回収先は、一般社団法人システム科学研究所とする。

5. 配布物

- ・ 発送用封筒：角 2 封筒
- ・ 返信用封筒：長 3 封筒
- ・ 調査票：A3 用紙 2 枚（A4 用紙換算で 8 枚に相当）（市町毎に作成）
A4 用紙 1 枚（10 代のみ別紙として配布）

6. 実施スケジュール

- ・ 調査票発送：9 月 30 日開始
- ・ 回答締切：10 月 17 日

7 月～8 月		9 月				10 月			
		9/6～	9/13～	9/20～	9/27～	10/4～	10/11～	10/18～	10/25～
							★協議会(書面)		
		調査票作成・確認・修正・印刷							
		宛名抽出・宛名ラベル作成							
				印刷・封入					
					発送				
						回答期間(10/1-10/17)			
								データ入力・集計	

7. 主な調査項目

- ・ 普段の移動状況（通勤・通学、買い物、通院、その他自由）
- ・ 外出率と公共交通を使った外出割合
- ・ 普段の送迎状況
- ・ 公共交通の利用状況、利用しない理由（鉄道、バス）
- ・ 公共交通への予算の使い方
- ・ 公共交通の利用促進に向けたアイデアの必要性和公共交通利用の増加への影響
- ・ 個人属性
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大による公共交通の利用の変化
- ・ 公共交通への意見・要望（10 代のみ回答）

8. 配布物

○発送用封筒

<p>みなさんの交通行動に関する簡単なアンケート調査です。 ご協力をお願いします。</p>
<p>公共交通に関する住民アンケート調査票</p>
<p>(調査実施機関) JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会</p>
<p>【事務局】 京都府建設交通部 交通政策課 TEL: 075-414-4361 FAX: 075-414-5183 綾部市市民環境部 市民協働課 TEL: 0773-42-4248 FAX: 0773-42-4406 南丹市地域振興部 地域振興課 TEL: 0771-68-0019 FAX: 0771-63-0653 京丹波町 にぎわい創生課 TEL: 0771-82-3809 FAX: 0771-82-2500</p>
<p>【差出人選付先】 一般社団法人 システム科学研究所 (調査受託機関) 〒604-8223 京都市中京区新町通四条上ル小結棚町428新町アイエスビル TEL: 075-221-3022 FAX: 075-231-4404</p>

○返信用封筒

	6048790 888
<p>返信用封筒</p>	京都市中京区新町通四条上ル小結棚町428 新町アイエスビル4階
	一般社団法人 システム科学研究所 「公共交通に関する住民アンケート調査」係 行

○アンケート調査票

(以降のページに「市町毎の調査票」及び「調査票別紙(10代のみ配布)」を掲載)

公共交通に関するアンケート調査

～アンケート調査へのご協力をお願い～

綾部市にお住まいの皆様へ

本アンケート調査は、綾部市・南丹市・京丹波町内にお住まいの皆様を対象に、日常生活での公共交通の利用状況や将来の公共交通のあり方などについてお聞きし、公共交通に関する計画づくりや施策検討の基礎資料として活用するために実施するものです。

ご多用のところ、誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会
※事務局：京都府、綾部市、南丹市、京丹波町

■ご回答にあたって

- ・この調査は、個人を対象にしていますので、**お送りした封筒のあて名の方**にご記入をお願いします。(調査の対象は、令和3年7月時点の住民基本台帳に登録されている情報に基づき、市民の皆さまの中から無作為に抽出しています)
- ・ご回答は、各質問の選択肢から該当する番号に○印をつけてください。
また、()や____内等には、具体的な数字や文字をご記入ください。
- ・調査結果の取り扱いについては、この調査以外の目的に使用することはありません。
また、統計的に集計しますので、個人を特定することはありません。

■アンケート調査票の回収について

- 回答期限 令和3年10月17日(日)まで**
- ・ご記入いただいたアンケート調査票は、本調査票の入っていた封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

■お問い合わせ先

- ・本調査についてご不明な点がございましたら、下記にお問い合わせください。
(調査実施機関)
JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会
【事務局】 京都府建設交通部 交通政策課
TEL:075-414-4361 FAX:075-414-5183
綾部市市民環境部 市民協働課
TEL:0773-42-4248 FAX:0773-42-4406

※本調査の実施は JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会が一般社団法人システム科学研究所に委託しています。

1. あなたの普段の移動についておたずねします。

問1. 下表の①～④の移動目的ごとに、あなたの外出状況をお答えください。

移動目的	各目的のために外出されますか。 (1つに○)	最もよく行く外出先 (1つに○)	最もよく行く外出先への移動頻度 (1つに○)
【記入例】 ①通勤・通学 綾部市外へ鉄道・バス を使って通勤する場合	① はい 2. いいえ → ②へ	1. 自宅(自営業) 2. 綾部市内 ③ 綾部市外 (京都 ①市・町・村)	① 週に5回以上 2. 週に2~4回程度 3. 週に1回程度 4. それ以下
①通勤・通学	1. はい 2. いいえ → ②へ	1. 自宅(自営業) 2. 綾部市内 3. 綾部市外 (市・町・村)	1. 週に5回以上 2. 週に2~4回程度 3. 週に1回程度 4. それ以下
②買い物	1. はい 2. いいえ → ③へ	1. マツモトあやべ店 2. バザールタウン綾部アスパ 3. フレッシュガール綾部幸通り店 4. 業務スーパー綾部店 5. その他 ()	1. 休日を含む毎日 2. 平日のみ毎日 3. 週に3~4回程度 4. 週に1~2回程度 5. 月に2~3回程度 6. 月に1回以下 7. 週末のみ
③通院	1. はい 2. いいえ → ④へ	1. 綾部市立病院 2. 綾部ルネス病院 3. 京都協立病院 4. その他 ()	1. 週に3回以上 2. 週に1~2回程度 3. 月に2~3回程度 4. 月に1回程度 5. 数ヶ月に1回程度 6. それ以下
④趣味・娯楽 サークル 福祉・地域活動	1. はい 2. いいえ → 問2へ	1. 綾部市市民ホール 2. 綾部市市民センター 3. 京都府中丹文化会館 4. 各地区公民館 5. その他 ()	1. 週に5回以上 2. 週に2~4回程度 3. 週に1回程度 4. 月に2~3回程度 5. 月に1回程度 6. それ以下

表A 移動手段の選択肢

1. 徒歩(乗り換えのための徒歩は含まない)	2. 自転車	3. バイク・原付
7. 鉄道(JR山陰本線以外)	8. あやバス	9. 京都交通バス
13. あやべ福祉フロンティア等による送迎	14. タクシー	15. その他

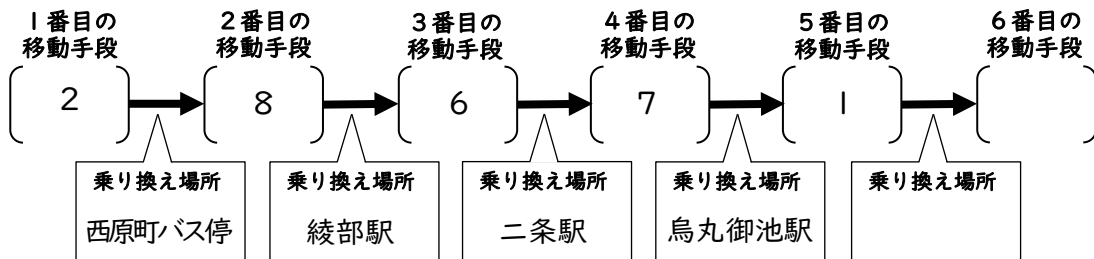
普段よく利用する移動手段と乗り換え場所

※移動手段：下の表Aより番号を選択

※乗り換え場所：枠内に具体的な駅名やバス停名を記載

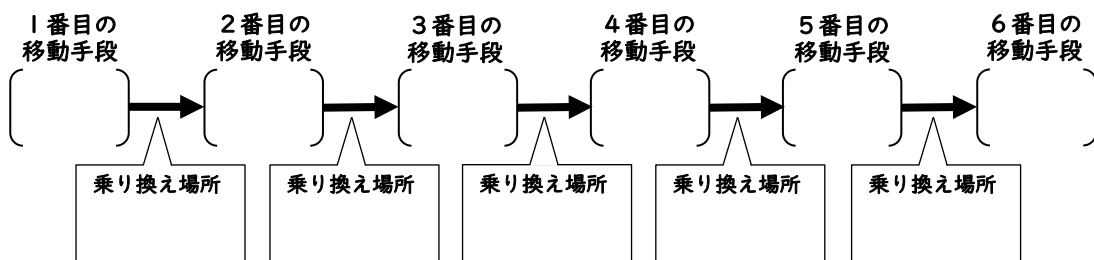
普段の移動時間

※24時間表記で記入



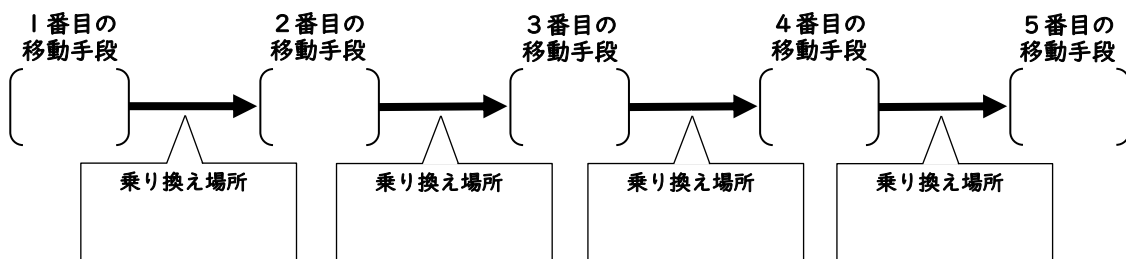
【自宅出発】
(6) 時 (10) 分

【目的地到着】
(8) 時 (30) 分



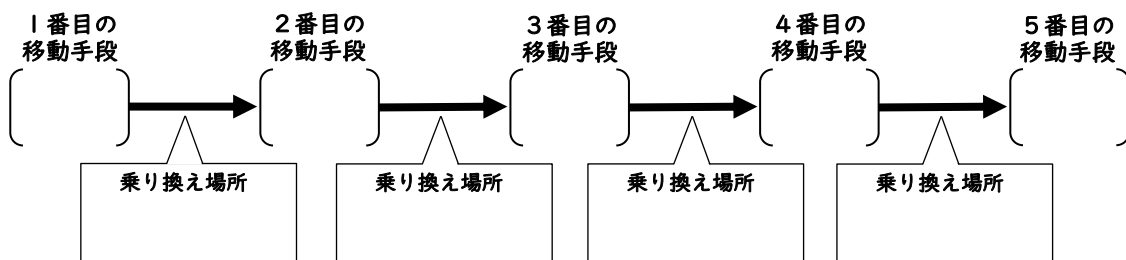
【自宅出発】
() 時 () 分

【目的地到着】
() 時 () 分



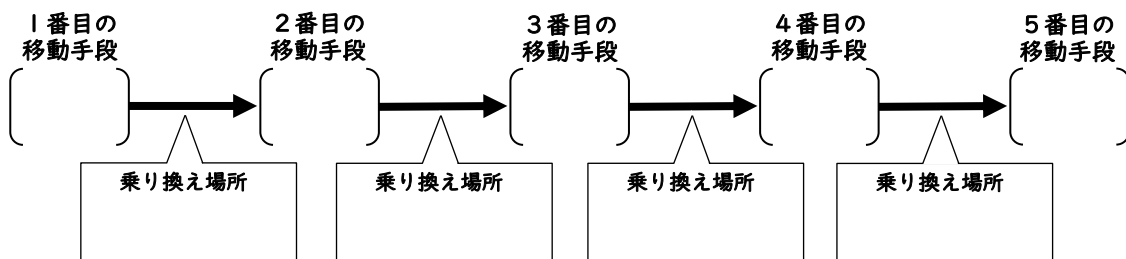
【自宅出発】
() 時 () 分

【目的地到着】
() 時 () 分



【自宅出発】
() 時 () 分

【目的地到着】
() 時 () 分



【自宅出発】
() 時 () 分

【目的地到着】
() 時 () 分

4. 自動車(自分で運転)

5. 自動車(家族等が送迎)

6. 鉄道 (J R 山陰本線)

10. 福知山市バス

11. みせんバス

12. バス (8 ~ 11 以外)

2. 最近の外出についておたずねします。

問2. 直近の平日5日間で外出した日数をお答えください。

外出した日数：() 日

問3. 直近の平日5日間で外出した回数と目的地までの移動でバイク・原付・自動車を利用した回数をお答えください。

外出した回数

- 1回の外出とは、ある目的(通学、出勤、買い物、通院、帰宅等)で、ある地点からある地点へ移動することをいいます。
- 右図の例では、外出回数は3回(出勤、買物、帰宅)となります。

バイク・原付・自動車を利用した回数

- 1回の外出における主な移動手段が「バイク・原付・自動車」である場合、1回と数えます。
- 複数の移動手段を用いた場合

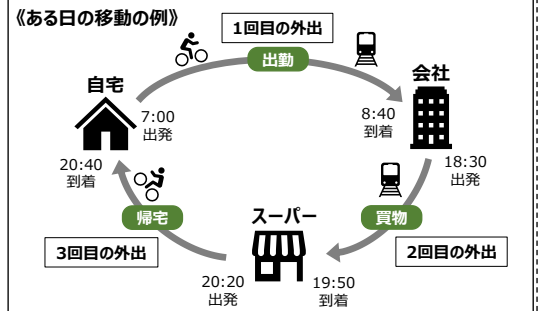
主な移動手段の優先順位は 飛行機・船 > 電車 > バス > 自動車 > バイク・原付 > 自転車 > 徒歩 です。

例1. 「自動車」と「徒歩」で移動した場合 ⇒ 主な移動手段は「自動車」

例2. 「バイク」と「バス」で移動した場合 ⇒ 主な移動手段は「バス」

例3. 「原付」と「電車」と「徒歩」で移動した場合 ⇒ 主な移動手段は「電車」

- バイク・自動車で家族等に送迎してもらった場合は、バイク・自動車を利用した回数に含めます。



直近の平日5日間で外出した回数 : () 回

直近の平日5日間でバイク・原付・自動車を利用して外出した回数 : () 回

問4. 直近の平日5日間で、本当は外出したかったが、公共交通が不便であったため、外出を諦めたことはありましたか？

1. あった 2. なかった 3. そもそも公共交通を利用しない

3. 普段の送迎についておたずねします。

問5. あなたは現在、**通学する家族**のために駅や学校等まで送迎していますか？

※学生の方は問6へお進みください。

1. 行き・帰り

2. 行きのみ

3. 帰りのみ

4. 将来的に送迎する可能性がある → 問5の③へ

5. いいえ(学生の方含む) → 問6へ

①主な送迎先をお答えください。(1つに○)

1. 駅(駅名:) 2. バス停(バス停名:)
3. 学校 4. その他()

②通学する家族の送迎を負担に感じることはありますか?(1つに○)

1. かなり負担を感じる 2. やや負担を感じる
3. あまり負担に感じない 4. 全く負担に感じない

③通学が不便等の理由により、家族の進学・進級に伴い、現在のお住まいからの引越しを予定していますか?(1つに○)

1. 引越す予定である 2. 現在、検討中である
3. 将来的に検討すると思う 4. 引越す予定はない

4. 公共交通の利用状況についておたずねします。

問6. 鉄道(JR山陰本線)の利用状況を教えてください。

①鉄道(JR山陰本線)を利用する頻度(1つに○)			
1. 休日を含む毎日	2. 平日のみ毎日	3. 週に3~4回程度	4. 週に1~2回程度
5. 月に2~3回程度	6. 週末のみ	7. ほとんど利用していない→問6の④へ	
②最もよく利用するJR山陰本線の駅(1つに○)			
1. 山家駅	2. 綾部駅	3. その他()	
③上記の最もよく利用する駅までの移動手段(1つに○)			
1. 徒歩	2. 自転車	3. バイク・原付	
4. 自動車(自分で運転)	5. 自動車(家族等が送迎)	6. あやバス	
7. 京都交通バス	8. 福知山市バス	9. みせんバス	
10. あやべ福祉フロンティア等による送迎	11. タクシー		
12. その他()			
④問6の①で「7. ほとんど利用していない」と回答した方にお聞きします。 鉄道(JR山陰本線)を利用していない理由を教えてください。(1つに○)			
1. 使う必要がないから→問7へ		2. 本当は使いたいが、使うことができないから	
⑤問6の④で「2. 本当は使いたいが、使うことができないから」と回答した方にお聞きします。 鉄道(JR山陰本線)を使うことができない理由を教えてください。(あてはまるもの全てに○)			
1. 駅行きのバスの運行本数が少ないから	2. 鉄道の運行本数が少ないから		
3. 鉄道との乗り継ぎが悪いから	4. バスの路線や時刻表がわからないから		
5. 鉄道の路線や時刻表がわからないから	6. バスの運賃が高いから		
7. 鉄道の運賃が高いから	8. 駅前の駐輪場・駐車場が少ないから		
9. その他()			

問7. バス(あやバス、京都交通バス、福知山市バス、みせんバス)の利用状況を教えてください。

①バスの利用頻度(1つに○)			
1. 休日を含む毎日	2. 平日のみ毎日	3. 週に3~4回程度	4. 週に1~2回程度
5. 月に2~3回程度	6. 週末のみ	7. ほとんど利用していない→問7の④へ	
②最もよく利用するバスの系統名と利用区間			
【バス系統名】(記入例; あやバス 上林線) : ()			
【利用区間】(バス停名でお答えください) : () ~ ()			

③最もよく利用するバス系統について、次の①～⑬の項目の満足度を5段階でお答えください。	
①運行ルート	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
②1日の運行本数	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
③自宅の最寄りバス停の位置(距離)	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
④目的地の最寄りバス停の位置(距離)	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑤始発時刻	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑥終発時刻	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑦鉄道との乗り継ぎの利便性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑧別のバス路線との乗り継ぎの利便性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑨バス車両の乗り降りのしやすさ	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑩運行ルートや時刻表の分かりやすさ	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑪バス停留所の快適性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑫運賃	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑬総合評価	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
④問7の①で「7. ほとんど利用していない」と回答した方にお聞きします。 バスを利用していない理由を教えてください。(1つに○)	
1. 使う必要がないから→問8へ	2. 本当は使いたいが、使うことができないから
⑤問7の④で「2. 本当は使いたいが、使うことができないから」と回答した方にお聞きします。 バスを使うことができない理由を教えてください。(あてはまるもの全てに○)	
1. 家からバス停まで遠いから	2. 目的地周辺にバス停がないから
3. 運行本数が少ないから	4. 時刻通りに運行していないから
5. 鉄道との乗り継ぎが悪いから	6. 早朝に運行していないから
7. 深夜に運行していないから	8. 土日祝に運行していないから
9. ルートや時刻表が分からないから	
10. その他 ()	

5. 今後の公共交通についておたずねします。

問8. あなたのお住まいの市町の限られた税金等の中での公共交通への予算の使い方について、どのように考えますか。(1つに○)

1. 公共交通の充実を図るべきなので、公共交通により多くの税金等を使って良い
2. 公共交通も重要だが、公共交通に使う税金等は減らし、他の施策の充実に使う方が良い
3. 現状のままで良い
4. その他 ()

6. 公共交通の利用促進についておたずねします。

問9. 公共交通の利用を促進するために、綾部市で下記(①～⑰)を実施した場合、各アイデアが地域にとって必要であると思いますか？また、下記のアイデアが実現した場合、あなた自身やご家族の公共交通利用が増加すると思いますか？

公共交通の利用促進に向けたアイデア ※アイデアの実現には、持続性や財源等の様々な観点から総合的に判断していきます。		地域にとって必要であると思いますか？		あなた自身または家族の公共交通利用が増加すると思いますか？		
		思う	思わない	増加する	増加しない	わからない・該当しない
通学	① 学校・部活の帰りに利用可能な遅い時間帯の公共交通の増便(18,19時台に駅出発)	1	2	1	2	3
	② 新1年生向けに公共交通を利用した通学ガイドの配布(中学3年生・高校3年生の時に配布)	1	2	1	2	3
	③ 保護者がスクールバス等の位置情報を確認できるシステムの導入	1	2	1	2	3
日常の移動(買物・通院)	④ 買物・通院先(例; マツモトあやべ店)の敷地内または目の前へのバスの停車	1	2	1	2	3
	⑤ 午前中に買物・通院先を往復できるバスダイヤの設定	1	2	1	2	3
	⑥ 買物・通院先からの帰宅時間帯に利用可能な公共交通の増便(17時台に駅出発)	1	2	1	2	3
	⑦ 地域主体のボランティアドライバーによる輸送方法(互助)の導入	1	2	1	2	3
	⑧ 妊産婦や育児中の方に向けたタクシー補助制度の導入	1	2	1	2	3
駅・バス停の整備	⑨ ゆっくりと飲食や会話を楽しめるスペースの設置	1	2	1	2	3
	⑩ 学生が勉強できる自習スペースの設置	1	2	1	2	3
	⑪ 女性が安心して待つことができる明るく清潔な環境の整備	1	2	1	2	3
	⑫ 乗換バス停に屋根・ベンチ・トイレの設置	1	2	1	2	3
住民のレジャー	⑬ 3市町共通(綾部市・京丹波町・南丹市)の学生向けの夏休み定期券の販売	1	2	1	2	3
	⑭ 土日祝日の京都へのお出かけを支援する綾部駅までの急行バスの運行	1	2	1	2	3
	⑮ 朝市の開催場所や集会所までの移動手段の提供	1	2	1	2	3
技術の活用	⑯ デジタルチケット(スマホ上で乗車券を購入・使用可能)の販売	1	2	1	2	3
	⑰ アプリ上で鉄道・バス等の経路検索、予約、決済が可能	1	2	1	2	3

7. あなたご自身のことについておたずねします。

①性別	1. 男性	2. 女性	3. その他	
②年齢	1. 10歳代 5. 50歳代 9. 75～79歳	2. 20歳代 6. 60～64歳 10. 80～84歳	3. 30歳代 7. 65～69歳 11. 85～89歳	4. 40歳代 8. 70～74歳 12. 90歳以上
③お住まい	〒 _____ 自治会名： _____ 自治会 _____			
④職業	1. 会社員・公務員 4. パート・アルバイト	2. 自営業・自由業（農業含む） 5. 学生	3. 専業主婦・主夫 6. 無職	
⑤運転免許保有状況	1. 自動車の運転免許を持っていて、普段運転する 2. 自動車の運転免許を持っているが、普段運転しない 3. 二輪・原付の運転免許を持っている 4. 運転免許はすでに返納した 5. 運転免許を持ったことがない			
⑥運転免許の返納予定	1. 当分、運転免許を返納する予定はない → ⑧へ 2. _____年以内、または、_____歳になったら返納しようと思う → ⑧へ 3. わからない、迷っている			
⑦免許返納を迷っている理由	1. 公共交通が不便だから 2. 公共交通の使い方が分からないから 3. 活動の範囲が限定されてしまうから 4. 身分証明が不便になるから 5. その他（ _____ ）			
⑧あなたが自由に使える車の有無	1. 自分の自動車がある 2. 家族で共有の自動車がある（主に自分が使用） 3. 家族で共有の自動車がある（主に自分以外が使用） 4. 自動車はない			
⑨スマホ所有状況	1. 所有している 2. 所有していない			
副問) 公共交通の経路検索、予約、決済ができる便利なアプリが開発されたら利用できますか。(1つに○) 1. 問題なく利用できる 2. 操作説明があれば利用できる 3. 利用することができない 4. 利用する必要がない				

<新型コロナウイルス感染症の影響について>

⑩新型コロナウイルス感染症の発生前と比べて、公共交通の利用頻度に変化はありましたか。	
1. 公共交通を利用しなくなった 2. 公共交通の利用頻度が減った 3. 公共交通の利用頻度に変化はない 4. もともと公共交通を利用していない 5. 公共交通の利用頻度が増えた	副問1) 利用しなくなった又は利用頻度が減った利用目的はどれですか。(あてはまるもの全てに○) 1. 通勤・通学 2. 買い物 3. 通院 4. 地域活動・趣味等 5. その他（ _____ ） 副問2) 新型コロナウイルス感染症が収束した後、公共交通の利用頻度を戻すことを考えていますか。(1つに○) 1. 公共交通の利用頻度を戻す予定である 2. 公共交通の利用頻度を戻す予定はない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

公共交通に関するアンケート調査

～アンケート調査へのご協力のお願ひ～

南丹市にお住まいの皆様へ

本アンケート調査は、綾部市・南丹市・京丹波町内にお住まいの皆様を対象に、日常生活での公共交通の利用状況や将来の公共交通のあり方などについてお聞きし、公共交通に関する計画づくりや施策検討の基礎資料として活用するために実施するものです。

ご多用のところ、誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会
※事務局：京都府、綾部市、南丹市、京丹波町

■ご回答にあたって

- ・この調査は、個人を対象にしていますので、**お送りした封筒のあて名の方**にご記入をお願いします。(調査の対象は、令和3年8月13日時点の住民基本台帳に登録されている情報に基づき、市民の皆さまの中から無作為に抽出しています)
- ・ご回答は、各質問の選択肢から該当する番号に○印をつけてください。
また、()や_____内等には、具体的な数字や文字をご記入ください。
- ・調査結果の取り扱いについては、この調査以外の目的に使用することはありません。
また、統計的に集計しますので、個人を特定することはありません。

■アンケート調査票の回収について

- 回答期限 令和3年10月17日(日)まで**
- ・ご記入いただいたアンケート調査票は、本調査票の入っていた封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

■お問い合わせ先

- ・本調査についてご不明な点がございましたら、下記にお問い合わせください。
(調査実施機関)
JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会
【事務局】 京都府建設交通部 交通政策課
TEL:075-414-4361 FAX:075-414-5183
南丹市地域振興部 地域振興課
TEL:0771-68-0019 FAX:0771-63-0653

※本調査の実施は JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会が一般社団法人システム科学研究所に委託しています。

1. あなたの普段の移動についておたずねします。

問1. 下表の①～④の移動目的ごとに、あなたの外出状況をお答えください。

移動目的	各目的のために外出されますか。 (1つに○)	最もよく行く外出先 (1つに○)	最もよく行く外出先への移動頻度 (1つに○)
【記入例】 ①通勤・通学 南丹市外へ鉄道・バス を使って通勤する場合	① はい 2. いいえ → ②へ	1. 自宅(自営業) 2. 南丹市内 ③ 南丹市外 (京都 (市) 町・村)	① 週に5回以上 2. 週に2~4回程度 3. 週に1回程度 4. それ以下
①通勤・通学	1. はい 2. いいえ → ②へ	1. 自宅(自営業) 2. 南丹市内 3. 南丹市外 (市・町・村)	1. 週に5回以上 2. 週に2~4回程度 3. 週に1回程度 4. それ以下
②買い物	1. はい 2. いいえ → ③へ	1. フレッシュバザール園部店 2. マツモト新そのべ店 3. エーコープ園部店 4. 地域の店 ぴーぷる 5. ふらっと美山 6. その他 ()	1. 休日を含む毎日 2. 平日のみ毎日 3. 週に3~4回程度 4. 週に1~2回程度 5. 月に2~3回程度 6. 月に1回以下 7. 週末のみ
③通院	1. はい 2. いいえ → ④へ	1. 京都中部総合医療センター(南丹病院) 2. 明治国際医療大学附属病院 3. 南丹みやま診療所 4. 京北病院 5. その他 ()	1. 週に3回以上 2. 週に1~2回程度 3. 月に2~3回程度 4. 月に1回程度 5. 数ヶ月に1回程度 6. それ以下
④趣味・娯楽 サークル 福祉・地域活動	1. はい 2. いいえ → 問2へ	1. 南丹市国際交流会館(周辺施設含む) 2. 園部文化会館(アスエルそのべ) 3. 遊 you ひよし 4. 美山文化ホール 5. その他 ()	1. 週に5回以上 2. 週に2~4回程度 3. 週に1回程度 4. 月に2~3回程度 5. 月に1回程度 6. それ以下

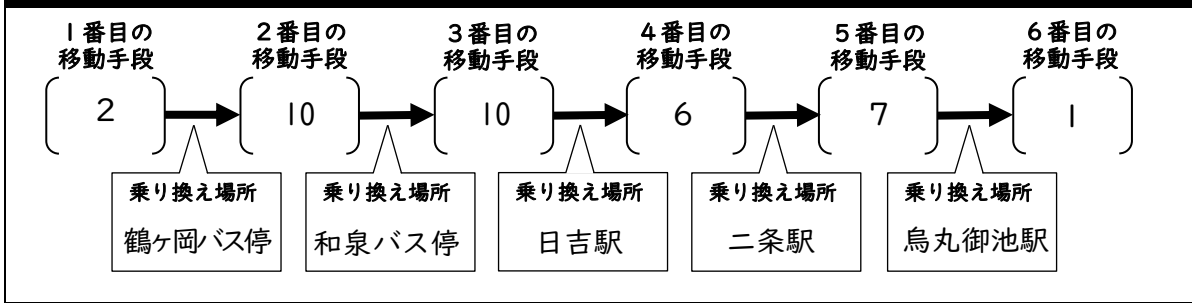
表A 移動手段の選択肢

1. 徒歩(乗り換えのための徒歩は含まない)	2. 自転車	3. バイク・原付
7. 鉄道(JR山陰本線以外)	8. 西日本JRバス	9. 京阪京都交通
13. バス(8~12以外)	14. タクシー	

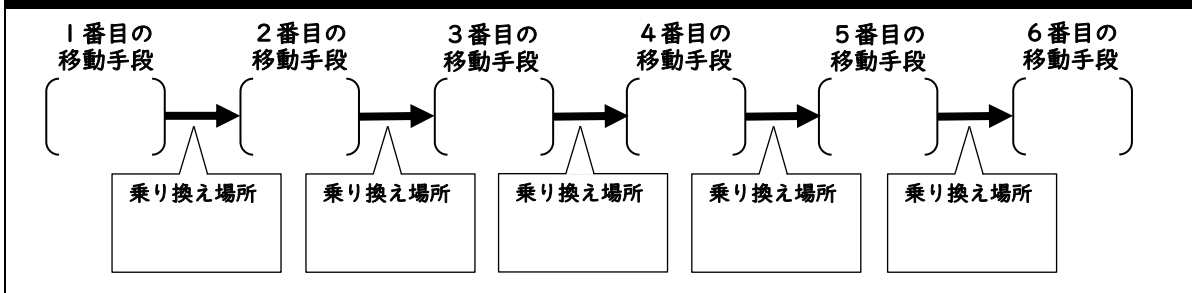


普段よく利用する移動手段と乗り換え場所
 ※移動手段：下の表Aより番号を選択
 ※乗り換え場所：枠内に具体的な駅名やバス停名を記載

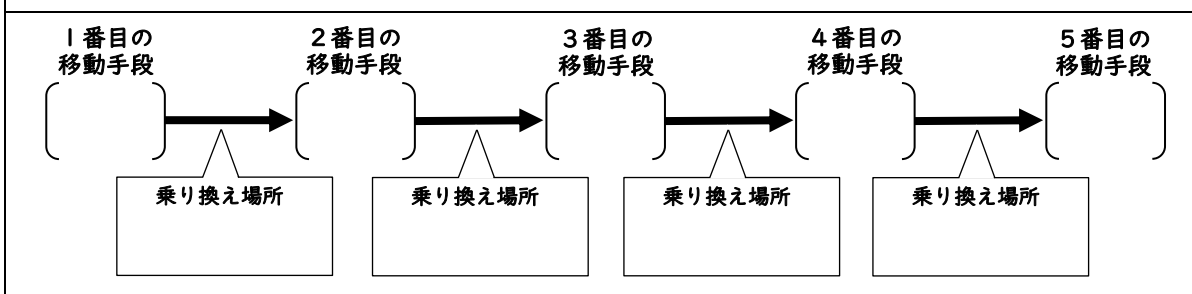
普段の移動時間
 ※24時間表記で記入



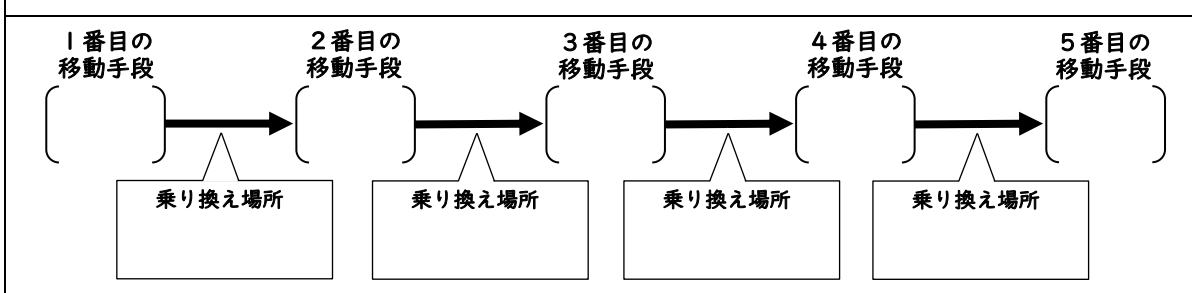
【自宅出発】
 (7) 時 (10) 分
 【目的地到着】
 (8) 時 (30) 分



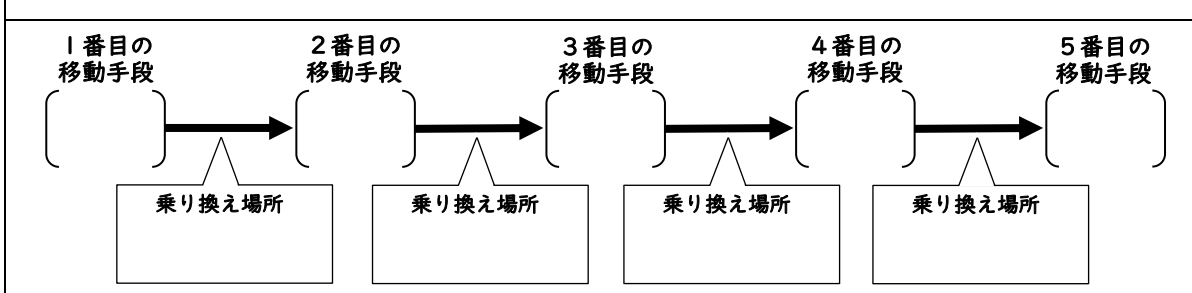
【自宅出発】
 () 時 () 分
 【目的地到着】
 () 時 () 分



【自宅出発】
 () 時 () 分
 【目的地到着】
 () 時 () 分



【自宅出発】
 () 時 () 分
 【目的地到着】
 () 時 () 分



【自宅出発】
 () 時 () 分
 【目的地到着】
 () 時 () 分

- | | | |
|-----------------|----------------|--------------------|
| 4. 自動車(自分で運転) | 5. 自動車(家族等が送迎) | 6. 鉄道 (J R 山陰本線) |
| 10. 南丹市営バス | 11. ぐるりんバス | 12. デマンドバスそよかぜ号 |
| 15. 社会福祉協議会等の送迎 | 16. その他 | |

2. 最近の外出についておたずねします。

問2. 直近の平日5日間で外出した日数をお答えください。

外出した日数：() 日

問3. 直近の平日5日間で外出した回数と、目的地までの移動でバイク・原付・自動車を利用した回数をお答えください。

外出した回数

- 1回の外出とは、ある目的(通学、出勤、買い物、通院、帰宅等)で、ある地点からある地点へ移動することをいいます。
- 右図の例では、外出回数は3回(出勤、買い物、帰宅)となります。

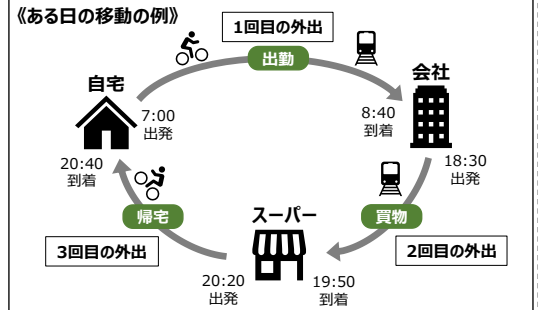
バイク・原付・自動車を利用した回数

- 1回の外出における主な移動手段が「バイク・原付・自動車」である場合、1回と数えます。
- 複数の移動手段を用いた場合

主な移動手段の優先順位は 飛行機・船 > 電車 > バス > 自動車 > バイク・原付 > 自転車 > 徒歩 です。

- 例1. 「自動車」と「徒歩」で移動した場合 ⇒ 主な移動手段は「自動車」
- 例2. 「バイク」と「バス」で移動した場合 ⇒ 主な移動手段は「バス」
- 例3. 「原付」と「電車」と「徒歩」で移動した場合 ⇒ 主な移動手段は「電車」

- バイク・自動車で家族等に送迎してもらった場合は、バイク・自動車を利用した回数に含めます。



直近の平日5日間で外出した回数 : () 回

直近の平日5日間でバイク・原付・自動車を利用して外出した回数 : () 回

問4. 直近の平日5日間で、本当は外出したかったが、公共交通が不便であったため、外出を諦めたことはありましたか？

1. あった 2. なかった 3. そもそも公共交通を利用しない

3. 普段の送迎についておたずねします。

問5. あなたは現在、通学する家族のために駅や学校等まで送迎していますか？

※学生の方は問6へお進みください。

1. 行き・帰り 2. 行きのみ
3. 帰りのみ

4. 将来的に送迎する可能性がある → 問5の③へ
5. いいえ(学生の方含む) → 問6へ

①主な送迎先をお答えください。(1つに○)

1. 駅(駅名:) 2. バス停(バス停名:)
3. 学校 4. その他()

②通学する家族の送迎を負担に感じることはありますか?(1つに○)

1. かなり負担を感じる 2. やや負担を感じる
3. あまり負担に感じない 4. 全く負担に感じない

③通学が不便等の理由により、家族の進学・進級に伴い、現在のお住まいからの引越しを予定していますか?(1つに○)

1. 引越す予定である 2. 現在、検討中である
3. 将来的に検討すると思う 4. 引越す予定はない

4. 公共交通の利用状況についておたずねします。

問6. 鉄道（JR山陰本線）の利用状況を教えてください。

①鉄道（JR山陰本線）を利用する頻度（1つに○）			
1. 休日を含む毎日	2. 平日のみ毎日	3. 週に3~4回程度	4. 週に1~2回程度
5. 月に2~3回程度	6. 週末のみ	7. ほとんど利用していない→問6の④へ	
②最もよく利用するJR山陰本線の駅（1つに○）			
1. 園部駅	2. 船岡駅	3. 日吉駅	
4. 鍼灸大学前駅	5. 胡麻駅	6. その他（	）
③上記の最もよく利用する駅までの移動手段（1つに○）			
1. 徒歩	2. 自転車	3. バイク・原付	
4. 自動車(自分で運転)	5. 自動車(家族等が送迎)		
6. バス(西日本JRバス、京阪京都交通、南丹市営バス、ぐるりんバス)			
7. デマンドバスそよかぜ号	8. タクシー		
9. 社会福祉協議会等の送迎	10. その他（		
）			
④問6の①で「7. ほとんど利用していない」と回答した方にお聞きします。 鉄道（JR山陰本線）を利用していない理由を教えてください。（1つに○）			
1. 使う必要がないから→問7へ		2. 本当は使いたいが、使うことができないから	
⑤問6の⑤で「2. 本当は使いたいが、使うことができないから」と回答した方にお聞きします。 鉄道（JR山陰本線）を使うことができない理由を教えてください。（あてはまるもの全てに○）			
1. 駅行きのバスの運行本数が少ないから	2. 鉄道の運行本数が少ないから		
3. バス同士の乗り継ぎが悪いから	4. 鉄道との乗り継ぎが悪いから		
5. バスの路線や時刻表がわからないから	6. 鉄道の路線や時刻表がわからないから		
7. バスの運賃が高いから	8. 鉄道の運賃が高いから		
9. 駅前の駐輪場・駐車場が少ないから	10. バスで園部駅まで直通で行けないから		
11. その他（	）		

問7. バス（西日本JRバス、京阪京都交通、南丹市営バス、ぐるりんバス）の利用状況を教えてください。

①バス（西日本JRバス、京阪京都交通、南丹市営バス、ぐるりんバス）の利用頻度（1つに○）			
1. 休日を含む毎日	2. 平日のみ毎日	3. 週に3~4回程度	4. 週に1~2回程度
5. 月に2~3回程度	6. 週末のみ	7. ほとんど利用していない→問7の④へ	
②最もよく利用するバス系統名と利用区間			
【バス系統名】（記入例；西日本JRバス園福線）：（			
）			
【利用区間】（バス停名でお答えください）：（			
） ~ （			
）			

③最もよく利用するバス系統について、次の①～⑬の項目の満足度を5段階でお答えください。	
①運行ルート	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
②1日の運行本数	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
③自宅の最寄りバス停の位置(距離)	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
④目的地の最寄りバス停の位置(距離)	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑤始発時刻	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑥終発時刻	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑦鉄道との乗り継ぎの利便性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑧別のバス路線との乗り継ぎの利便性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑨バス車両の乗り降りのしやすさ	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑩運行ルートや時刻表の分かりやすさ	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑪バス停留所の快適性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑫運賃	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑬総合評価	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
④問7の①で「7. ほとんど利用していない」と回答した方にお聞きします。 バスを利用していない理由を教えてください。(1つに○)	
1. 使う必要がないから→問8へ	2. 本当は使いたいが、使うことができないから
⑤問7の④で「2. 本当は使いたいが、使うことができないから」と回答した方にお聞きします。 バスを使うことができない理由を教えてください。(あてはまるもの全てに○)	
1. 家からバス停まで遠いから	2. 目的地周辺にバス停がないから
3. 運行本数が少ないから	4. 時刻通りに運行していないから
5. 鉄道との乗り継ぎが悪いから	6. バス同士の乗り継ぎが悪いから
7. 早朝に運行していないから	8. 深夜に運行していないから
9. 土日祝に運行していないから	10. ルートや時刻表が分からないから
11. 社会福祉協議会等の送迎と比べて運賃が高いから	12. その他 ()

5. 今後の公共交通についておたずねします。

問8. あなたのお住まいの市町の限られた税金等の中での公共交通への予算の使い方について、どのように考えますか。(1つに○)

1. 公共交通の充実を図るべきなので、公共交通により多くの税金等を使って良い
2. 公共交通も重要だが、公共交通に使う税金等は減らし、他の施策の充実を使う方が良い
3. 現状のままで良い
4. その他 ()

6. 公共交通の利用促進についておたずねします。

問9. 公共交通の利用を促進するために、南丹市で下記(①～⑰)を実施した場合、各アイデアが地域にとって必要であると思いますか？また、下記のアイデアを実現した場合、あなた自身やご家族の公共交通利用が増加すると思いますか？

公共交通の利用促進に向けたアイデア ※アイデアの実現には、様々な観点から総合的に判断していきます。 ※実際に実施する場合、南丹市の税金を使って整備・運用することになります。		地域にとって必要であると思いますか？		あなた自身または家族の公共交通利用が増加すると思いますか？		
		思う	思わない	増加する	増加しない	わからない・該当しない
通学	① 学校・部活の帰りに利用可能な遅い時間帯の公共交通の増便(18,19時台に駅出発)	1	2	1	2	3
	② 新1年生向けに公共交通を利用した通学ガイドの配布(中学3年生・高校3年生の時に配布)	1	2	1	2	3
	③ 保護者がスクールバス等の位置情報を確認できるシステムの導入	1	2	1	2	3
日常の移動(買物・通院)	④ 買物・通院先(例；フレッシュバザール園部店)の敷地内または目の前へのバスの停車	1	2	1	2	3
	⑤ 午前中に買物・通院先を往復できるバスダイヤの設定	1	2	1	2	3
	⑥ 買物・通院先からの帰宅時間帯に利用可能な公共交通の増便(17時台に駅出発)	1	2	1	2	3
	⑦ 地域主体のボランティアドライバーによる輸送方法(互助)の導入	1	2	1	2	3
	⑧ 妊産婦や育児中の方に向けたタクシー補助制度の導入	1	2	1	2	3
駅・バス停の整備	⑨ ゆっくりと飲食や会話を楽しめるスペースの設置	1	2	1	2	3
	⑩ 学生が勉強できる自習スペースの設置	1	2	1	2	3
	⑪ 女性が安心して待つことができる明るく清潔な環境の整備	1	2	1	2	3
	⑫ 乗換バス停に屋根・ベンチ・トイレの設置	1	2	1	2	3
住民のレジャー	⑬ 3市町共通(綾部市・京丹波町・南丹市)の学生向けの夏休み定期券の販売	1	2	1	2	3
	⑭ 土日祝日の京都へのお出かけを支援する園部駅までの急行バスの運行	1	2	1	2	3
	⑮ 朝市の開催場所や集会所までの移動手段の提供	1	2	1	2	3
技術の活用	⑯ デジタルチケット(スマホ上で乗車券を購入・使用可能)の販売	1	2	1	2	3
	⑰ アプリ上で鉄道・バス等の経路検索、予約、決済が可能	1	2	1	2	3

7. あなたご自身のことについておたずねします。

①性別	1. 男性	2. 女性	3. その他	
②年齢	1. 10歳代 5. 50歳代 9. 75～79歳	2. 20歳代 6. 60～64歳 10. 80～84歳	3. 30歳代 7. 65～69歳 11. 85～89歳	4. 40歳代 8. 70～74歳 12. 90歳以上
③お住まい	〒 _____ 南丹市 _____ 町 ※住所は大字までご記入ください			
④職業	1. 会社員・公務員 4. パート・アルバイト	2. 自営業・自由業（農業含む） 5. 学生	3. 専業主婦・主夫 6. 無職	
⑤運転免許保有状況	1. 自動車の運転免許を持っていて、普段運転する 2. 自動車の運転免許を持っているが、普段運転しない 3. 二輪・原付の運転免許を持っている 4. 運転免許はすでに返納した 5. 運転免許を持ったことがない			
⑥運転免許の返納予定	1. 当分、運転免許を返納する予定はない → ⑧へ 2. _____年以内、または、_____歳になったら返納しようと思う → ⑧へ 3. わからない、迷っている			
⑦免許返納を迷っている理由	1. 公共交通が不便だから 2. 公共交通の使い方が分からないから 3. 活動の範囲が限定されてしまうから 4. 身分証明が不便になるから 5. その他（ _____ ）			
⑧あなたが自由に使える車の有無	1. 自分の自動車がある 2. 家族で共有の自動車がある（主に自分が使用） 3. 家族で共有の自動車がある（主に自分以外が使用） 4. 自動車はない			
⑨スマホ所有状況	1. 所有している 2. 所有していない			
副問) 公共交通の経路検索、予約、決済ができる便利なアプリが開発されたら利用できますか。(1つに○) 1. 問題なく利用できる 2. 操作説明があれば利用できる 3. 利用することができない 4. 利用する必要がない				

<新型コロナウイルス感染症の影響について>

⑩新型コロナウイルス感染症の発生前と比べて、公共交通の利用頻度に変化はありましたか。	
1. 公共交通を利用しなくなった 2. 公共交通の利用頻度が減った 3. 公共交通の利用頻度に変化はない 4. もともと公共交通を利用していない 5. 公共交通の利用頻度が増えた	副問1) 利用しなくなった又は利用頻度が減った利用目的はどれですか。(あてはまるもの全てに○) 1. 通勤・通学 2. 買い物 3. 通院 4. 地域活動・趣味等 5. その他（ _____ ） 副問2) 新型コロナウイルス感染症が収束した後、公共交通の利用頻度を戻すことを考えていますか。(1つに○) 1. 公共交通の利用頻度を戻す予定である 2. 公共交通の利用頻度を戻す予定はない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

公共交通に関するアンケート調査

～アンケート調査へのご協力をお願い～

京丹波町にお住まいの皆様へ

本アンケート調査は、綾部市・南丹市・京丹波町内にお住まいの皆様を対象に、日常生活での公共交通の利用状況や将来の公共交通のあり方などについてお聞きし、公共交通に関する計画づくりや施策検討の基礎資料として活用するために実施するものです。

ご多用のところ、誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会
※事務局：京都府、綾部市、南丹市、京丹波町

■ご回答にあたって

- ・この調査は、個人を対象にしていますので、**お送りした封筒のあて名の方**にご記入をお願いします。（調査の対象は、令和3年7月末時点の住民基本台帳に登録されている情報に基づき、町民の皆さまの中から無作為に抽出しています）
- ・ご回答は、各質問の選択肢から該当する番号に○印をつけてください。
また、（ ）や _____ 内等には、具体的な数字や文字をご記入ください。
- ・調査結果の取り扱いについては、この調査以外の目的に使用することはありません。
また、統計的に集計しますので、個人を特定することはありません。

■アンケート調査票の回収について

回答期限 令和3年10月17日（日）まで

- ・ご記入いただいたアンケート調査票は、本調査票の入っていた封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

■お問い合わせ先

- ・本調査についてご不明な点がございましたら、下記にお問い合わせください。

（調査実施機関）

JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会

【事務局】 京都府建設交通部 交通政策課

TEL:075-414-4361 FAX:075-414-5183

京丹波町 にぎわい創生課

TEL:0771-82-3809 FAX:0771-82-2500

※本調査の実施は JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会が一般社団法人システム科学研究所に委託しています。

1. あなたの普段の移動についておたずねします。

問1. 下表の①～④の移動目的ごとに、あなたの外出状況をお答えください。

移動目的	各目的のために外出されますか。 (1つに○)	最もよく行く外出先 (1つに○)	最もよく行く外出先への移動頻度 (1つに○)
【記入例】 ①通勤・通学 京丹波町外へ鉄道・バス を使って通勤する場合	①. はい 2. いいえ→ <input type="checkbox"/> ②へ	1. 自宅(自営業) 2. 京丹波町内 ③. 京丹波町外(京都 <input type="checkbox"/> 市 [○] 町・村)	①. 週に5回以上 2. 週に2~4回程度 3. 週に1回程度 4. それ以下
①通勤・通学	1. はい 2. いいえ→ <input type="checkbox"/> ②へ	1. 自宅(自営業) 2. 京丹波町内 3. 京丹波町外(市・町・村)	1. 週に5回以上 2. 週に2~4回程度 3. 週に1回程度 4. それ以下
②買い物	1. はい 2. いいえ→ <input type="checkbox"/> ③へ	1. 丹波マーケス 2. サンダイコー 下山店 3. サンダイコー 瑞穂店 4. 道の駅 和 5. その他()	1. 休日を含む毎日 2. 平日のみ毎日 3. 週に3~4回程度 4. 週に1~2回程度 5. 月に2~3回程度 6. 月に1回以下 7. 週末のみ
③通院	1. はい 2. いいえ→ <input type="checkbox"/> ④へ	1. 丹波笠次病院 2. 京丹波町病院 3. 京丹波町病院和知診療所 4. その他()	1. 週に3回以上 2. 週に1~2回程度 3. 月に2~3回程度 4. 月に1回程度 5. 数ヶ月に1回程度 6. それ以下
④趣味・娯楽 サークル 福祉・地域活動	1. はい 2. いいえ→ <input type="checkbox"/> 問2へ	1. 京丹波町中央公民館 2. 山村開発センターみずほ 3. 和知ふれあいセンター 4. その他()	1. 週に5回以上 2. 週に2~4回程度 3. 週に1回程度 4. 月に2~3回程度 5. 月に1回程度 6. それ以下

表A 移動手段の選択肢

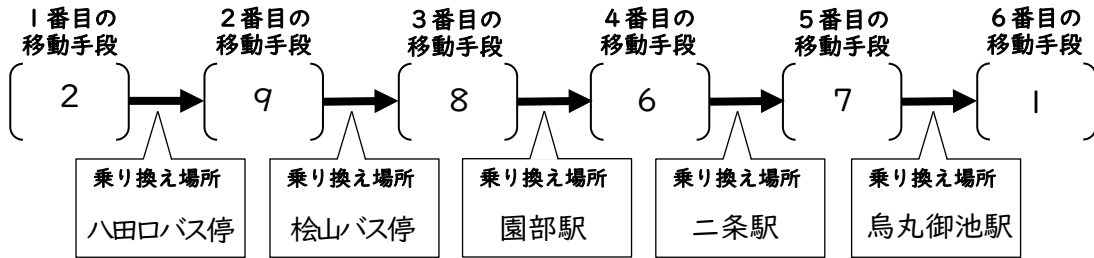
- | | | |
|--|------------|------------|
| 1. 徒歩(乗り換えのための徒歩は含まない) | 2. 自転車 | 3. バイク・原付 |
| 7. 鉄道(JR山陰本線以外) | 8. 西日本JRバス | 9. 京丹波町営バス |
| 12. 社会福祉協議会等の送迎(京丹波町社会福祉協議会、クローバーサービス、まごころサービスあい愛、さわやかライフ) | | |

普段よく利用する移動手段と乗り換え場所

※移動手段：下の表Aより番号を選択

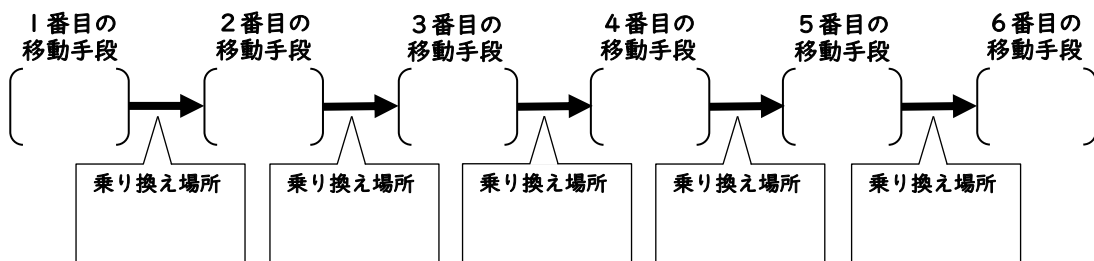
※乗り換え場所：枠内に具体的な駅名やバス停名を記載

普段の移動時間
※24時間表記で記入



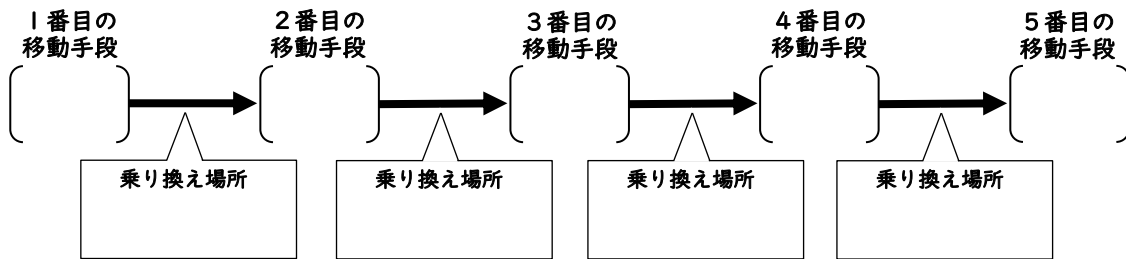
【自宅出発】
(6) 時 (50) 分

【目的地到着】
(8) 時 (30) 分



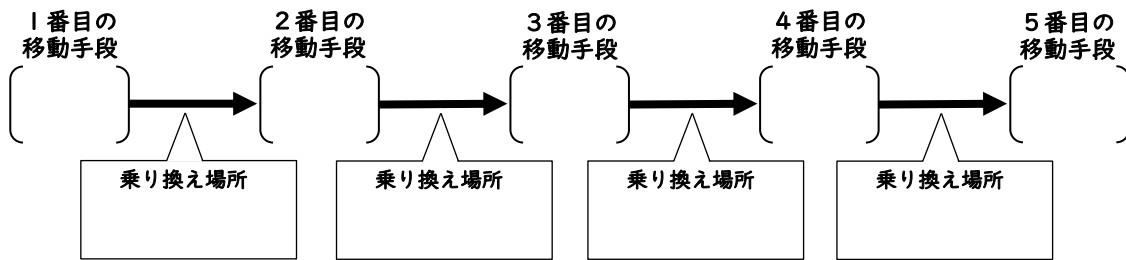
【自宅出発】
() 時 () 分

【目的地到着】
() 時 () 分



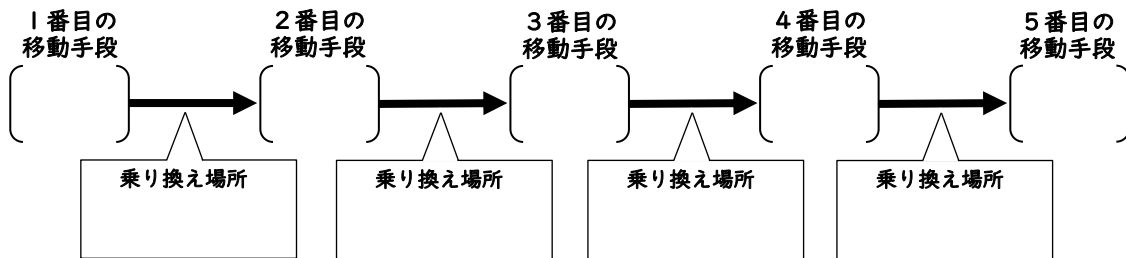
【自宅出発】
() 時 () 分

【目的地到着】
() 時 () 分



【自宅出発】
() 時 () 分

【目的地到着】
() 時 () 分



【自宅出発】
() 時 () 分

【目的地到着】
() 時 () 分

- 4. 自動車(自分で運転)
- 10. バス(8、9以外)
- 13. その他

- 5. 自動車(家族等が送迎)
- 11. タクシー

- 6. 鉄道(JR山陰本線)

2. 最近の外出についておたずねします。

問2. 直近の平日5日間で外出した日数をお答えください。

外出した日数：() 日

問3. 直近の平日5日間で外出した回数と目的地までの移動でバイク・原付・自動車を利用した回数をお答えください。

外出した回数

- 1回の外出とは、ある目的(通学、出勤、買い物、通院、帰宅等)で、ある地点からある地点へ移動することをいいます。
- 右図の例では、外出回数は3回(出勤、買い物、帰宅)となります。

バイク・原付・自動車を利用した回数

- 1回の外出における主な移動手段が「バイク・原付・自動車」である場合、1回と数えます。
- 複数の移動手段を用いた場合

主な移動手段の優先順位は 飛行機・船 > 電車 > バス > 自動車 > バイク・原付 > 自転車 > 徒歩 です。

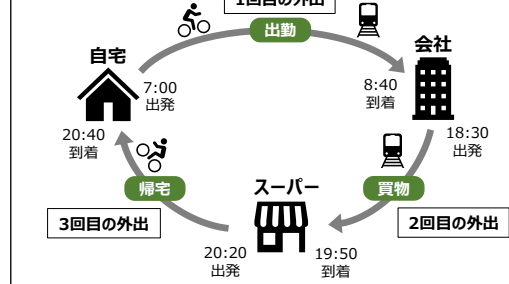
例1. 「自動車」と「徒歩」で移動した場合 ⇒ 主な移動手段は「自動車」

例2. 「バイク」と「バス」で移動した場合 ⇒ 主な移動手段は「バス」

例3. 「原付」と「電車」と「徒歩」で移動した場合 ⇒ 主な移動手段は「電車」

- バイク・自動車で家族等に送迎してもらった場合は、バイク・自動車を利用した回数に含めます。

《ある日の移動の例》



直近の平日5日間で外出した回数

直近の平日5日間でバイク・原付・自動車を利用して外出した回数：() 回

問4. 直近の平日5日間で、本当は外出したかったが、公共交通が不便であったため、外出を諦めたことはありましたか？

1. あった 2. なかった 3. そもそも公共交通を利用しない

3. 普段の送迎についておたずねします。

問5. あなたは現在、**通学する家族**のために駅や学校等まで送迎していますか？

※学生の方は問6へお進みください。

1. 行き・帰り 2. 行きのみ
3. 帰りのみ

4. 将来的に送迎する可能性がある → 問5の③へ

5. いいえ(学生の方含む) → 問6へ

①主な送迎先をお答えください。(1つに○)

1. 駅(駅名:) 2. バス停(バス停名:)
3. 学校 4. その他()

②通学する家族の送迎を負担に感じることはありますか?(1つに○)

1. かなり負担を感じる 2. やや負担を感じる
3. あまり負担に感じない 4. 全く負担に感じない

③通学が不便等の理由により、家族の進学・進級に伴い、現在のお住まいからの引越しを予定していますか?(1つに○)

1. 引越す予定である 2. 現在、検討中である
3. 将来的に検討すると思う 4. 引越す予定はない

4. 公共交通の利用状況についておたずねします。

問6. 鉄道（JR 山陰本線）の利用状況を教えてください。

①鉄道（JR 山陰本線）を利用する頻度（1つに○）	
1. 休日を含む毎日	2. 平日のみ毎日
3. 週に3~4回程度	4. 週に1~2回程度
5. 月に2~3回程度	6. 週末のみ
7. ほとんど利用していない→問6の④へ	
②最もよく利用するJR 山陰本線の駅（1つに○）	
1. 下山駅	2. 和知駅
3. 安栖里駅	4. 立木駅
5. その他（ ）	
③上記の最もよく利用する駅までの移動手段（1つに○）	
1. 徒歩	2. 自転車
3. バイク・原付	4. 自動車(自分で運転)
5. 自動車(家族等が送迎)	6. バス(西日本JRバス、京丹波町営バス)
7. タクシー	8. 社会福祉協議会等*の送迎
9. その他（ ）	
*京丹波町社会福祉協議会、クローバーサービス、まごころサービスあい愛、さわやかライフ	
④問6の①で「7. ほとんど利用していない」と回答した方にお聞きます。 鉄道（JR 山陰本線）を利用していない理由を教えてください。（1つに○）	
1. 使う必要がないから→問7へ	2. 本当は使いたいが、使うことができないから
⑤問6の④で「2. 本当は使いたいが、使うことができないから」と回答した方にお聞きます。 鉄道（JR 山陰本線）を使うことができない理由を教えてください。（あてはまるもの全てに○）	
1. 駅行きのバスの運行本数が少ないから	2. 鉄道の運行本数が少ないから
3. バス同士の乗り継ぎが悪いから	4. 鉄道との乗り継ぎが悪いから
5. バスの路線や時刻表がわからないから	6. 鉄道の路線や時刻表がわからないから
7. バスの運賃が高いから	8. 鉄道の運賃が高いから
9. 駅前の駐輪場・駐車場が少ないから	10. バスで園部駅まで直通で行けないから
11. その他（ ）	

問7. バス（西日本JRバス、京丹波町営バス）の利用状況を教えてください。

①バス（西日本JRバス、京丹波町営バス）の利用頻度（1つに○）	
1. 休日を含む毎日	2. 平日のみ毎日
3. 週に3~4回程度	4. 週に1~2回程度
5. 月に2~3回程度	6. 週末のみ
7. ほとんど利用していない→問7の④へ	
②最もよく利用するバス系統名と利用区間	
【バス系統名】(記入例;京丹波町営バス 丹波和知線):()	
【利用区間】(バス停名でお答えください) : () ~ ()	

③最もよく利用するバス系統について、次の①～⑬の項目の満足度を5段階でお答えください。	
①運行ルート	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
②1日の運行本数	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
③自宅の最寄りバス停の位置(距離)	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
④目的地の最寄りバス停の位置(距離)	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑤始発時刻	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑥終発時刻	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑦鉄道との乗り継ぎの利便性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑧別のバス路線との乗り継ぎの利便性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑨バス車両の乗り降りのしやすさ	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑩運行ルートや時刻表の分かりやすさ	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑪バス停留所の快適性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑫運賃	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
⑬総合評価	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
④問7の①で「7. ほとんど利用していない」と回答した方にお聞きします。 バスを利用していない理由を教えてください。(1つに○)	
1. 使う必要がないから→問8へ	2. 本当は使いたいが、使うことができないから
⑤問7の④で「2. 本当は使いたいが、使うことができないから」と回答した方にお聞きします。 バスを使うことができない理由を教えてください。(あてはまるもの全てに○)	
1. 家からバス停まで遠いから	2. 目的地周辺にバス停がないから
3. 運行本数が少ないから	4. 時刻通りに運行していないから
5. 鉄道との乗り継ぎが悪いから	6. バス同士の乗り継ぎが悪いから
7. 早朝に運行していないから	8. 深夜に運行していないから
9. 土日祝に運行していないから	10. ルートや時刻表が分からないから
11. その他 ()

5. 今後の公共交通についておたずねします。

問8. あなたのお住まいの市町の限られた税金等の中での公共交通への予算の使い方について、どのように考えますか。(1つに○)

1. 公共交通の充実を図るべきなので、公共交通により多くの税金等を使って良い
2. 公共交通も重要だが、公共交通に使う税金等は減らし、他の施策の充実に使う方が良い
3. 現状のままで良い
4. その他 (
)

6. 公共交通の利用促進についておたずねします。

問9. 公共交通の利用を促進するために、京丹波町で下記(①～⑰)を実施した場合、各アイデアが地域にとって必要であると思いますか？また、下記のアイデアが実現した場合、あなた自身やご家族の公共交通利用が増加すると思いますか？

公共交通の利用促進に向けたアイデア ※アイデアの実現には、持続性や財源等の様々な観点から総合的に判断していきます。		地域にとって必要であると思いますか？		あなた自身または家族の公共交通利用が増加すると思いますか？		
		思う	思わない	増加する	増加しない	わからない・該当しない
通学	① 学校・部活の帰りに利用可能な遅い時間帯の公共交通の増便(18, 19時台に駅出発)	1	2	1	2	3
	② 新1年生向けに公共交通を利用した通学ガイドの配布(中学3年生・高校3年生の時に配布)	1	2	1	2	3
	③ 保護者がスクールバス等の位置情報を確認できるシステムの導入	1	2	1	2	3
日常の移動(買物・通院)	④ 買物・通院先の敷地内または目の前へのバスの停車	1	2	1	2	3
	⑤ 午前中に買物・通院先を往復できるバスダイヤの設定	1	2	1	2	3
	⑥ 買物・通院先からの帰宅時間帯に利用可能な公共交通の増便(17時台に駅出発)	1	2	1	2	3
	⑦ 地域主体のボランティアドライバーによる輸送方法(互助)の導入	1	2	1	2	3
	⑧ 妊産婦や育児中の方に向けたタクシー補助制度の導入	1	2	1	2	3
駅・バス停の整備	⑨ ゆっくりと飲食や会話を楽しめるスペースの設置	1	2	1	2	3
	⑩ 学生が勉強できる自習スペースの設置	1	2	1	2	3
	⑪ 女性が安心して待つことができる明るく清潔な環境の整備	1	2	1	2	3
	⑫ 乗換バス停に屋根・ベンチ・トイレの設置	1	2	1	2	3
住民のレジャー	⑬ 3市町共通(綾部市・京丹波町・南丹市)の学生向けの夏休み定期券の販売	1	2	1	2	3
	⑭ 土日祝日の京都へのお出かけを支援する園部駅までの急行バスの運行	1	2	1	2	3
	⑮ 朝市の開催場所や集会所までの移手段の提供	1	2	1	2	3
技術の活用	⑯ デジタルチケット(スマホ上で乗車券を購入・使用可能)の販売	1	2	1	2	3
	⑰ アプリ上で鉄道・バス等の経路検索、予約、決済が可能	1	2	1	2	3

7. あなたご自身のことについておたずねします。

①性別	1. 男性	2. 女性	3. その他	
②年齢	1. 10歳代 5. 50歳代 9. 75～79歳	2. 20歳代 6. 60～64歳 10. 80～84歳	3. 30歳代 7. 65～69歳 11. 85～89歳	4. 40歳代 8. 70～74歳 12. 90歳以上
③お住まい	〒 _____ 京丹波町 ※住所は大字までご記入ください			
④職業	1. 会社員・公務員 4. パート・アルバイト	2. 自営業・自由業（農業含む） 5. 学生	3. 専業主婦・主夫 6. 無職	
⑤運転免許保有状況	1. 自動車の運転免許を持っていて、普段運転する 2. 自動車の運転免許を持っているが、普段運転しない 3. 二輪・原付の運転免許を持っている 4. 運転免許はすでに返納した 5. 運転免許を持ったことがない → <input type="checkbox"/> ⑧へ			
⑥運転免許の返納予定	1. 当分、運転免許を返納する予定はない → <input type="checkbox"/> ⑧へ 2. _____年以内、または、_____歳になったら返納しようと思う → <input type="checkbox"/> ⑧へ 3. わからない、迷っている			
⑦免許返納を迷っている理由	1. 公共交通が不便だから 2. 公共交通の使い方が分からないから 3. 活動の範囲が限定されてしまうから 4. 身分証明が不便になるから 5. その他（ _____ ）			
⑧あなたが自由に使える車の有無	1. 自分の自動車がある 2. 家族で共有の自動車がある（主に自分が使用） 3. 家族で共有の自動車がある（主に自分以外が使用） 4. 自動車はない			
⑨スマホ所有状況	1. 所有している 2. 所有していない 副問) 公共交通の経路検索、予約、決済ができる便利なアプリが開発されたら利用できますか。(1つに○) 1. 問題なく利用できる 2. 操作説明があれば利用できる 3. 利用することができない 4. 利用する必要がない			

<新型コロナウイルス感染症の影響について>

⑩新型コロナウイルス感染症の発生前と比べて、公共交通の利用頻度に変化はありましたか。	
1. 公共交通を利用しなくなった 2. 公共交通の利用頻度が減った 3. 公共交通の利用頻度に変化はない 4. もともと公共交通を利用していない 5. 公共交通の利用頻度が増えた	副問1) 利用しなくなった又は利用頻度が減った利用目的はどれですか。(あてはまるもの全てに○) 1. 通勤・通学 2. 買い物 3. 通院 4. 地域活動・趣味等 5. その他（ _____ ） 副問2) 新型コロナウイルス感染症が収束した後、公共交通の利用頻度を戻すことを考えていますか。(1つに○) 1. 公共交通の利用頻度を戻す予定である 2. 公共交通の利用頻度を戻す予定はない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

公共交通に関するアンケート調査票（別紙）

※学生（高校生、大学生、短大生、専門学校生）の方のみご回答をお願いいたします。

公共交通への意見・要望をおたずねします。

問. 学校への通学、学校や塾等からの帰宅、週末のお出かけなどで、公共交通を利用する場合に
不便であると感じる点や、使いやすくするためのアイデアがあれば、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

鉄道利用に関するアンケート調査 調査計画書

1. 調査の目的

- ・ JR 山陰本線を基軸とする3市町を対象区域とし、今後の公共交通のマスタープランとなる「JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通計画」の策定にあたり、JR 圏域内の鉄道駅利用者に対して駅端末交通手段の利用実態やニーズ等を把握するもの。

2. 調査の対象

調査対象駅：園部駅、日吉駅、鍼灸大学前駅、胡麻駅、下山駅、和知駅、山家駅

- ・ 圏域内の上記7駅で実施する。なお、利用者数の少ない駅は対象外とする。
- ・ 園部駅以外の6駅では、早朝～昼過ぎまでの駅利用者（全員）を対象とする。
- ・ 園部駅では、帰宅時間帯に家族等の送迎で帰る学生等を対象とする。

3. 配布数

- ・ 約950人の利用者に対して配布する。
- ・ 回収率を3割と想定し、約280人からの回答を想定する。

表 3-1 アンケートの配布数

各駅の1日あたりの利用者数 (令和2年3月31日現在)	調査対象駅	予定配布数			予定回収数 (3割と想定)	備考	
		1日の乗車数 (全時間)	調査時間帯 での乗車数 (全時間の7割)	受取率 (左記の9割)			
南丹市 園部	9,026人	帰宅時間のみ	4513	226	203	61	配布率5%と想定
南丹市 船岡	98人	-	-	-	-	-	
南丹市 日吉	524人	○	262	183	165	50	
南丹市 鍼灸大学前	786人	○	393	275	248	74	
南丹市 胡麻	550人	○	275	193	174	52	
京丹波町 下山	182人	○	91	64	58	17	
京丹波町 和知	254人	○	127	89	80	24	
京丹波町 安栖里	28人	-	-	-	-	-	
京丹波町 立木	16人	-	-	-	-	-	
綾部市 山家	44人	○	22	15	14	4	
綾部市 綾部	3,100人	-	-	-	-	-	
小計 (○印の駅)		6	1170	819	739	221	
小計 (帰宅時間のみ配布の駅)		1	4513	226	203	61	
合計		7	5683	1045	942	282	

4. 調査方法

- ・調査員による手渡し配布、郵送回収。
 - －列車出発直前は、調査票配布を行わない。
 - －改札内や物販等の店舗内では、調査票配布を行わない。
 - －調査員はマスク・腕章を着用する。調査用のパイプ椅子等、機材設置は行わない。
- ・回収先は、一般社団法人システム科学研究所とする。

5. 調査日

- ・調査日：秋期平日1日調査－10月25日（月）を予定
※京都府内で緊急事態宣言が発出されている場合は、調査日を延期する。
- ・調査時間帯：
 - ①園部駅以外の6駅：午前5時半頃～午後2時頃まで
 - －山家駅550発（京都行）に乗車する人へ配布できるよう、調査を開始する。
 - －午後2時以降は、午前中に移動した人の帰宅利用が想定され、重複での配布が多くなるため、調査は実施しない。
 - ②園部駅：午後5時～午後7時まで
 - －学生の帰宅ピーク時間帯に調査実施する。
 - －園部駅を降車し、駅前広場で送迎待ちをしている学生等へ配布する。

6. 配布物

- ・発送用封筒兼返信用封筒：長3封筒
- ・調査票兼調査への依頼状（挨拶状）：A3用紙1枚（A4用紙換算で4枚に相当）

7. 実施スケジュール

- ・10月下旬（10/25 予定）に調査を実施する。 ※京都府の緊急事態宣言の発出状況に応じて変更する。



7月～9月	10月				11月			
	10/4～	10/11～	10/18～	10/25～	11/1～	11/8～	11/15～	11/22～
	調査票作成							
		印刷・調査準備						
				配布				
				回答期間 (10/25-11/7)				
						データ入力・集計		

8. 主な調査項目

- ・ 個人属性
- ・ 調査票を受け取った日の鉄道の利用状況
- ・ 駅までの移動手段で公共交通を利用しない理由
- ・ 調査票を受け取った駅に対する満足度評価
- ・ 駅の再生や機能の充実の評価
- ・ 公共交通の改善ニーズ

9. 配布物

- 発送用兼返信用封筒

 料金受取人払郵便	6048790
中京局 承認 2331	888
差出有効期間 令和4年3月31日まで (切手不要)	
京都市中京区新町通四条上ル小結棚町428 新町アイエスビル4階	
一般社団法人 システム科学研究所	
「鉄道利用に関する アンケート調査」係 行	
	
返信用封筒	
この封筒に、「鉄道利用に関するアンケート調査票」が入っています。 ご一読、何卒よろしくお願いたします。	
アンケート回答後は、調査票をこの封筒に入れて郵便ポストに投函してください。 (切手は不要です)	
【調査実施機関】 JR山陰本線(郡部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会	
【事務局】 京都府建設交通部 交通政策課 綾部市市民環境部 市民協働課 南丹市地域振興部 地域振興課 京丹波町 にぎわい創生課	

- アンケート調査票 (別紙)

鉄道利用に関するアンケート調査

～アンケート調査へのご協力のお願ひ～

本アンケート調査は、綾部市・南丹市・京丹波町内の鉄道駅を利用している皆様を対象に、公共交通の利用状況や将来の公共交通のあり方などについてお聞きし、公共交通に関する計画づくりや施策検討の基礎資料として活用するために実施するものです。

ご多用のところ、誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会

※事務局：京都府、綾部市、南丹市、京丹波町

■ご回答にあたって

- ・ご回答は、各質問の選択肢から該当する番号に○印をつけてください。
- また、 や()内等には、具体的な数字や文字をご記入ください。
- ・調査結果の取り扱いについては、この調査以外の目的に使用することはありません。
- また、統計的に集計しますので、個人を特定することはありません。

■アンケート調査票の回収について

回答期限 令和3年11月7日(日)まで

- ・ご記入いただいたアンケート調査票は、本調査票の入っていた封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

■お問い合わせ先

- ・本調査についてご不明な点がございましたら、下記にお問い合わせください。

(調査実施機関)

JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会

【事務局】 京都府建設交通部 交通政策課

TEL:075-414-4361 FAX:075-414-5183

綾部市市民環境部 市民協働課

TEL:0773-42-4248 FAX:0773-42-4406

南丹市地域振興部 地域振興課

TEL:0771-68-0019 FAX:0771-63-0653

京丹波町 にぎわい創生課

TEL:0771-82-3809 FAX:0771-82-2500

※本調査の実施は JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会が一般社団法人システム科学研究所に委託しています。

鉄道利用に関するアンケート調査

1. あなたご自身のことについておたずねします。

問1. 性別	1. 男性 2. 女性 3. その他
問2. 年齢	1. 19歳以下 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60～64歳 7. 65～69歳 8. 70～74歳 9. 75～79歳 10. 80～84歳 11. 85～89歳 12. 90歳以上
問3. お住まい	〒 _____ ※郵便番号のみご記入ください
問4. 職業	1. 会社員・公務員 2. 自営業・自由業（農業含む） 3. 専業主婦・主夫 4. パート・アルバイト 5. 学生 6. 無職

2. 調査票を受け取った日の移動についておたずねします。

問5. 調査票を受け取った日の 鉄道（JR山陰本線）の利用状況 をお答えください。

①調査票を受け取った日に利用した駅	
[行き] 1. () 駅から () 駅まで	2. 鉄道を利用していない
[帰り] 1. () 駅から () 駅まで	2. 鉄道を利用していない
②調査票を受け取った日の、鉄道を利用した時間帯（駅に到着した時間帯をご記入ください）	
[行き] 1. おおむね () 時台	2. 鉄道を利用していない
[帰り] 1. おおむね () 時台	2. 鉄道を利用していない
③調査票を受け取った日の、鉄道を利用した主な目的（1つに○）	
1. 通勤 2. 通学 3. 通院 4. 買物 5. 趣味・習い事・食事 6. 観光・レジャー 7. 業務 8. その他 ()	
④調査票を受け取った駅の利用頻度（1つに○）	
1. 週に5日以上 2. 週に3～4日 3. 週に1～2日 4. 月に2～3日 5. 月に1回程度 6. 年に数回程度	
⑤調査票を受け取った日の駅への移動手段（行き）、または駅からの移動手段（帰り）（1つに○）	
[行き] 1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク・原付 4. 自動車(自分で運転) 5. 自動車(家族等が送迎) 6. 南丹市営バス・京丹波町営バス・あやバス 7. タクシー 8. 社会福祉協議会等の送迎 9. その他() 10. 鉄道を利用していない	
[帰り] 1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク・原付 4. 自動車(自分で運転) 5. 自動車(家族等が送迎) 6. 南丹市営バス・京丹波町営バス・あやバス 7. タクシー 8. 社会福祉協議会等の送迎 9. その他() 10. 鉄道を利用していない	

問6. 調査票を受け取った駅へ、**公共交通以外で移動している人**にお聞きします。駅までの移動手段で公共交通を利用しない理由をお答えください。

1. 使う必要がないから
 2. 本当は使いたいが、使うことができないから

副問) 公共交通を使うことができない理由をお答えください。(あてはまるもの全てに○)

1. 家からバス停まで歩くことが大変だから
 2. 駅前にバスが乗り入れしていないから
 3. 時刻通りに運行していないから
 4. 鉄道との乗り継ぎが悪いから
 5. 途中のバス同士の乗り継ぎが悪いから
 6. 早朝に運行していないから
 7. 夜間(帰宅時間)に運行していないから
 8. ルートや時刻表がよくわからないから
 9. その他()

2. 調査票を受け取った駅についておたずねします。

問7. 全員にお聞きします。

調査票を受け取った駅について、次の①～⑬の項目の満足度を5段階でお答えください。

移動手段	①送迎用の自動車の駐車スペース	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	②駐車場の位置や駐車可能台数	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	③駐輪場の位置や駐輪可能台数	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	④駅前のバス停の位置や待合環境	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	⑤バスの運行時間帯	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	⑥鉄道とバスの乗継時間(待ち時間)	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
駅の機能	⑦運行情報などの情報提供の種類や内容	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	⑧駅の待合・休憩スペース	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	⑨トイレや売店などの施設	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	⑩照明や空調	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	⑪ホームの安全性	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
	⑫駅の待合やホーム等の清潔さ	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
観光	⑬観光情報・案内	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)
全体	⑭総合評価	(不満) ← 1・2・3・4・5 → (満足)

問8. JR山陰本線の船岡駅～山家駅間では、駅の再生・活性化に向けて、機能の充実等に取り組んでいます。以前(5年前)と比べて、調査票を受け取った駅は、良くなったと思いますか。(1つに○)

1. 良くなったと思う
 2. やや良くなったと思う
 3. 以前と変わらない
 4. やや悪くなったと思う
 5. 悪くなったと思う
 6. わからない・以前を知らない

3. 今後の公共交通についておたずねします。

問9. 公共交通の利用を促進するために、下記①～⑰を実施した場合、各アイデアが地域にとって必要であると思いますか？また、下記のアイデアを実現した場合、あなた自身やご家族の公共交通利用が増加すると思いますか？

公共交通の利用促進に向けたアイデア ※アイデアの実現には、持続性や財源等の様々な観点から総合的に判断していきます。		地域にとって必要であると思いますか？		あなた自身または家族の公共交通利用が増加すると思いますか？		
		思う	思わない	増加する	増加しない	わからない・該当しない
通学	① 学校・部活の帰りに利用可能な遅い時間帯の公共交通の増便(18,19時台に駅出発)	1	2	1	2	3
	② 新1年生向けに公共交通を利用した通学ガイドの配布(中学3年生・高校3年生の時に配布)	1	2	1	2	3
	③ 保護者がスクールバス等の位置情報を確認できるシステムの導入	1	2	1	2	3
日常の移動(買物・通院)	④ 買物・通院先の敷地内または目の前へのバスの停車	1	2	1	2	3
	⑤ 午前中に買物・通院先を往復できるバスダイヤの設定	1	2	1	2	3
	⑥ 買物・通院先からの帰宅時間帯に利用可能な公共交通の増便(17時台に駅出発)	1	2	1	2	3
	⑦ 地域主体のボランティアドライバーによる輸送方法(互助)の導入	1	2	1	2	3
	⑧ 妊産婦や育児中の方に向けたタクシー補助制度の導入	1	2	1	2	3
駅・バス停の整備	⑨ ゆっくりと飲食や会話を楽しめるスペースの設置	1	2	1	2	3
	⑩ 学生が勉強できる自習スペースの設置	1	2	1	2	3
	⑪ 女性が安心して待つことができる明るく清潔な環境の整備	1	2	1	2	3
	⑫ 乗換バス停に屋根・ベンチ・トイレの設置	1	2	1	2	3
住民のレジャー	⑬ 3市町共通(綾部市・京丹波町・南丹市)の学生向けの夏休み定期券の販売	1	2	1	2	3
	⑭ 土日祝日の京都へのお出かけを支援する園部駅や綾部駅までの急行バスの運行	1	2	1	2	3
	⑮ 朝市の開催場所や集会所までの移動手段の提供	1	2	1	2	3
技術の活用	⑯ デジタルチケット(スマホ上で乗車券を購入・使用可能)の販売	1	2	1	2	3
	⑰ アプリ上で鉄道・バス等の経路検索、予約、決済が可能	1	2	1	2	3

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。